

令和7年度第2回千葉県博物館協議会 次第

日時：令和7年10月31日（金）

13時30分～16時00分

会場：千葉県立現代産業科学館 会議室

1 開 会

2 館長あいさつ

3 委員紹介・出席職員紹介

4 議 事

（1）常設展及び企画展の視察及び講評（県立現代産業科学館）

（2）多様な主体との連携施策について

5 その他

6 閉 会

千葉県博物館協議会委員 名簿

No.	領 域	氏 名	所 属 等	備考
1	学校教育	<small>さいとう のりこ</small> 齋藤 智子	栄町立安食台小学校 校長	御欠席
2	社会教育	<small>ふ せ としゆき</small> 布施 利之	君津市教育委員会 生涯学習文化課 副課長	オンライン
3	家庭教育	<small>う き い づ み</small> 卯木 伊津美	千葉県子ども会育成連合会 理事	御欠席
4	学識経験者	<small>ゆ あ さ は る ひ さ</small> 湯浅 治久	専修大学文学部 教授	御欠席
5	学識経験者	<small>せ き ざ わ</small> 関沢 まゆみ	国立歴史民俗博物館研究部 教授	
6	学識経験者	<small>こ う の</small> 鴻野 わか菜	早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部 教授	
7	学識経験者	<small>ほ そ や つ よ し</small> 細矢 剛	国立科学博物館 副館長（兼）植物研究部長	
8	学識経験者	<small>た か は し ま さ し</small> 高橋 正	東邦大学 名誉教授	
9	学識経験者	<small>う す ざ か こ う じ</small> 臼坂 光二	NHK 千葉放送局 局長	御欠席
10	学識経験者	<small>か ど わ き い ち ろ う</small> 門脇 伊知郎	合同会社わんぱく 代表	

（任期：令和6年12月1日～令和8年11月30日）

令和7年度 第2回千葉県博物館協議会 出席者名簿

千葉県立美術館・博物館 説明者

館 名	職 名	氏 名
千葉県立美術館	館長	貝塚 健
千葉県立中央博物館	館長	四柳 隆
千葉県立現代産業科学館	館長	松田 光司
千葉県立関宿城博物館	学芸課長	小田島 高之
千葉県立房総のむら	館長	西原 正男

千葉県 環境生活部 スポーツ・文化局 文化振興課

部課名	職 名	氏 名
環境生活部文化振興課	副参事兼室長	山口 篤
環境生活部文化振興課	主幹	小野 理華
環境生活部文化振興課	副主査	宮川 尚子
環境生活部文化振興課	技師	鈴木 健人

千葉県立美術館・博物館 職員

館 名	職 名	氏 名
千葉県立美術館	副館長	高山 順子
千葉県立美術館	普及課長	立和名 啓人
千葉県立現代産業科学館	副館長	植野 百代
千葉県立現代産業科学館	普及課長	竹内 洋子
千葉県立現代産業科学館	学芸課長	小笠原 淳
千葉県立現代産業科学館	上席研究員	葭葉 彩子
千葉県立房総のむら	副館長兼事業課長	鎌形 佐知夫

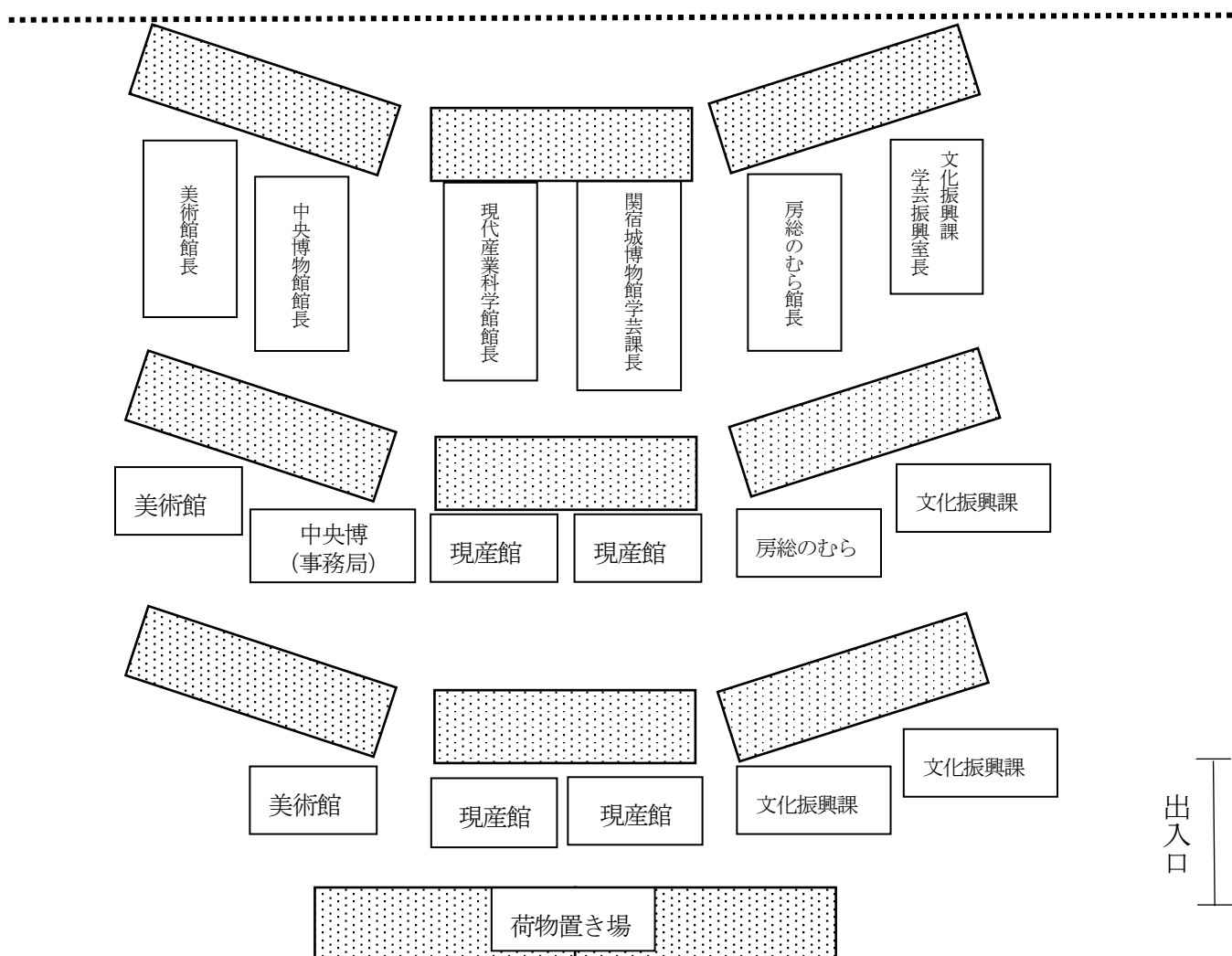
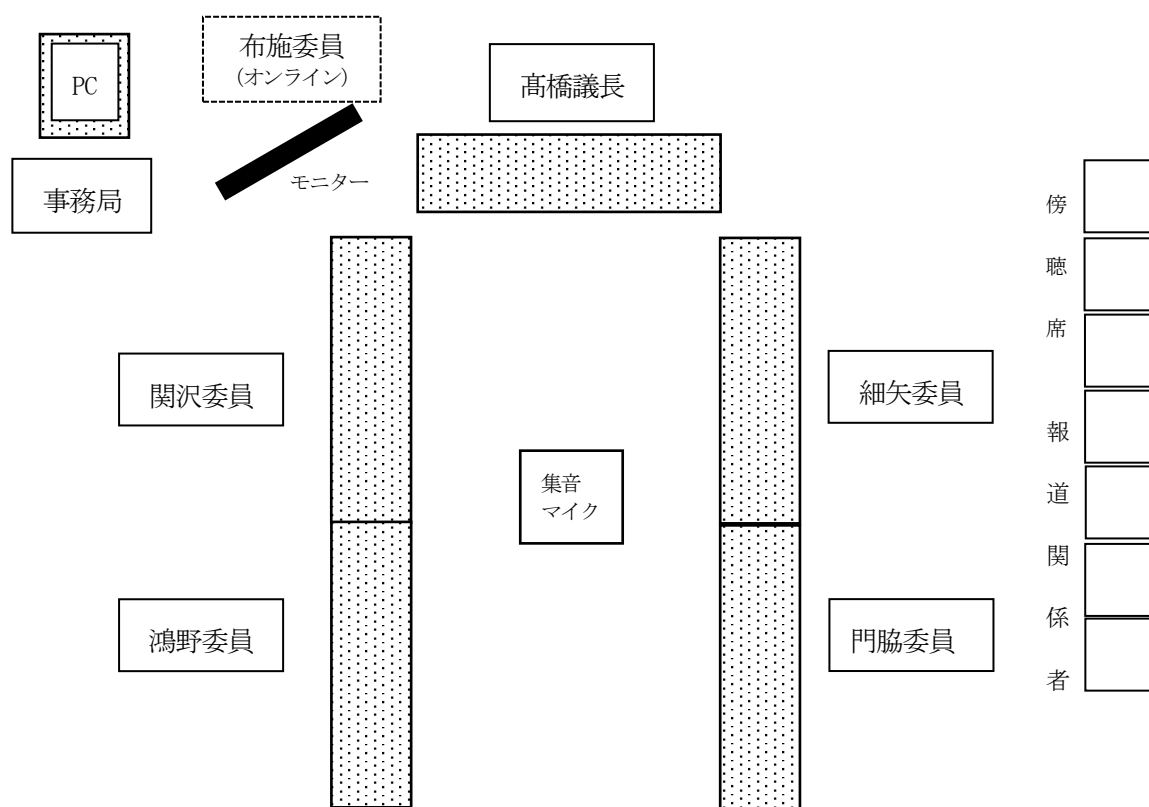
事務局

館 名	職 名	氏 名
千葉県立中央博物館	企画調整課長	猪野 義信
	上席研究員	監物 うい子

令和7年度 第2回千葉県博物館協議会

座席表

出入口



出入口

千葉県立博物館・美術館の連携強化について（進捗報告）

【資料1】

実施項目	概要	対応状況
千葉県立博物館・美術館合同セミナー 「千葉学講座」	県立博物館・美術館の研究員が、房総の自然や歴史・文化など幅広い分野について、日ごろの調査研究活動の成果をわかりやすく解説する講座	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も引き続き開催予定。 ・県立各館が取り組む共通テーマ（房総の歴史／水辺・海辺の生物）を設け、テーマに即して各館から講演者を選定。 ・講演内容は企画展との連動も考慮。 ・開催会場は1館（中央博物館）から2館（中央博物館・現代産業科学館）に拡大。 <p>【開催予定】</p> <p>令和8年1月18日（日）@現代産業科学館</p> <p>講演1 武田郁也・研究員（関宿城博）『戦国時代の軍勢と恩賞』</p> <p>講演2 須田華那・研究員（中央博）『江戸時代の房総の社会』</p> <p>令和8年2月1日（日）@中央博物館</p> <p>講演1 樽宗一朗・研究員（中央博）『水辺の昆虫』</p> <p>講演2 平田和彦・研究員（海博）『海鳥は豊かな海のシンボル』</p>
①人的交流・情報交換の場の創出	若手職員を中心とした各館の学芸職員の情報交換の場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員の研修として他館見学、意見交換を検討中（中央博）
②ワークショップ及び展示の出張実施	本来の来館者層とは異なる層の来館者の誘致を図る。また、各館から遠方に在住する人たち向けに、近隣館で情報やサービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部商業施設等で実施しているイベントを、他館と共同で実施することを検討中（中央博）

③SNSを使った広報での連携	各館で運用しているSNSを連携し、本来の来館者層とは異なる層の誘致を図るとともに、実際には来館しない層にも情報を波及させ、知名度の底上げを狙う。	・「千葉学講座」に関連した資料の紹介や広報を、県立各館がSNSで連携・投稿することを検討中。
④デジタルサイネージを用いた県立博物館情報コーナー	各館に専用デジタルサイネージを設置し、自館だけでなく、他館の内容も含め、県立博物館全体の概要（活動内容や展示等）を紹介する。	・県立各館における面的な展開が進むよう、引き続き、デジタルサイネージ等の予算措置を検討したい。
その他 (R6年度第2回協議会での提案事項以外)	【美術館の国際交流事業の展開】 美術館では千葉県と独・デュッセルドルフ市との姉妹提携に基づくアーティスト交流事業を行っている。この事業の中で、県立館の連携を活かした視察を行う。	・令和7年度は、デュッセルドルフ市からアーティスト1名を受け入れる。この際に、美術館のみならず、他の県立博物館の視察を行う。来日予定者の希望も加味して、中央博物館 分館海の博物館を視察予定。

多様な主体との連携について（県立5館の連携以外）

【資料2】

館園名		企画名称	連携先	実施期間	目的・概要
美術館	1	千葉みなと地域のイベントへの参加	千葉市みなと活性化協議会	—	「千葉市みなと活性化協議会」が主催する事業にワークショップ等で参加。 ・千葉みなとさんばしまつり（令和7年9月7日） ・千葉湊大漁まつり（令和7年11月1日）（館内施設も利用） ・千葉みなと千夜市夜（令和7年12月6日） ・ちばみなとクリスマスマーケット（令和7年12月）
	2	近隣飲食店等との連携	タリーズコーヒー 軒先珈琲	—	・タリーズコーヒー千葉みなと店との連携 ・軒先珈琲との連携
	3	展覧会に係る近隣施設との連携	地域の飲食店等 千葉県文化振興財団、 君津市、 松本ピアノ・オルガン保存会	・満月夏まつり 8月9日 ・角野未来ナイトミュージアムコンサート 9月5日 ・MUMA 11月22日、23日、24日、 1月17日、18日	・高島野十郎展に係るイベント「満月夏まつり」に関する地域との連携 ・高島野十郎展会期中に地域等と連携してピアノコンサートを実施 ・サラ・ファン・ライ展に係る「MUMA（ミュージアムマーケット）」に関する近隣施設との連携
	4	近隣企業との連携	株式会社ZOZO	令和7年7月19日	夏休み企画「ぐるぐる？アート夏休み」の関連行事として、（株）ZOZOと連携したワークショップを実施した。
	5	ミュージアムコンサート	千葉県立千葉女子高等学校 県内ジャズバンド 千葉交響楽団	令和7年9月21日（千葉女子高校） 令和7年12月14日（ジャズバンド） 令和8年2月11日（千葉交響楽団）	美術館の荘厳な空間で音楽を楽しみ、また各展覧会と楽曲のコラボレーションを味わっていただくために、各種のミュージアムコンサートを開催する。
	6	ミュージアムバス事業	県内小中学校	令和7年9月24日（柏市立藤心小学校）	日ごろ本物の美術作品に触れる機会の少ない県内の小中学校に対して美術館に来てもらい美術作品を鑑賞する。（事前に学芸員が学校を訪れ、出前授業を行う。）

中央博物館	1	歴博×中央博スタン プラリー	国立歴史民俗博物館	令和7年8月1日～9月28日	令和6年4月に締結した包括連携協定の一環として実施。中央博物館の重点事業「千葉の海の魅力を探り、国内外に発信」とも関連させ、「船」を共通テーマとして、関連する展示をめぐるスタンプラリーとした。両館のスタンプラリー達成による景品配布実績は411個となっており、博物館同士の周遊を促進する一定の効果があつた。
	2	近隣商業施設との連携	①アリオ蘇我 ②ハウジングプラザ千葉・青葉の森（住宅展示場）	①令和7年度の奇数月（年6回） ②令和7年9月21日	①大型商業施設「アリオ蘇我」と合同でイベントを開催。博物館で開催中の特別展示・企画展示に合わせたテーマで、クイズ大会、ワークショップ等を実施。 ②住宅展示場が主催するイベントに出展（今年度初出展）。①と同様の内容でのワークショップ等を実施。 ①②ともに、新規顧客層の開拓を狙い、イベント参加者に来館すると特典がもらえる参加証を配布し、イベント参加から来館の動機へのつながりを計測した。
	3	図書館連携	県立図書館	講演会：令和7年7月26日 読み聞かせ：令和7年8月31日	特別展の開催に合わせて、関連行事として、図書館による講演会や子供向けの読み聞かせを博物館において実施した。
	4	千葉MLA連携	県立図書館・文書館	令和7年4月～6月	大阪万博の開催に合わせ、博覧会や共進会（産業技術の交流・展示会）に関する資料紹介を、それぞれの施設の切り口で投稿、リポストし合う取り組みを実施した。
	5	あおばminiminiまつり	青葉の森公園	令和7年6月7日	地域住民への博物館の認知向上、特別展の周知のため、中央博物館の立地する青葉の森公園イベントへ出展し、特別展に合わせた海の幸の缶バッジづくり、貝やカニなど海の生物のハンズオン展示を実施した。
	6	自然史フェスタ	房総の自然や歴史を探究する各種団体	例年11月3日	房総の自然や歴史を探究する団体と連携して、毎年博物館で開催するイベント。各団体が工夫を凝らした展示やワークショップを実施。中央博サークル（各団体のテーマに沿って活動を行う市民サークル。博物館の事業として実施し、職員が専門的知見を提供する）の日頃の活動の発表の場として利用されている。

現代産業科学館	1	展示・運営協力会	各企業、学校、研究機関等	通年	館の博物館活動の充実・発展を目的として結成され、平成6年の開館から当館の様々な活動に協力している団体であり、その目的を達成するため、常設展示における資料の提供や、展示会、実験・工作教室、サイエンスショーの実施、講演会の開催等を主催し、産業技術のすばらしさを発信している。また、当館が主催する「伝えたい千葉の産業技術100選」の選定に際しても、意見を頂いている。
	2	おにたかとらい	市川市生涯学習センター ニッケコルトンプラザ	通年	博物館法の改正により、多様な主体との連携による地域活性化を図るため、市川市鬼高地区において、当館と市川市生涯学習センター、ニッケコルトンプラザの三者の連携を強化し、それぞれの強みを生かして様々な事業を実施している。当館職員によるニッケコルトンプラザでの工作教室、図書館職員による当館での読み聞かせなど年間10回程度の事業を展開している。 三者の（tri）と、「学び」「遊び」「癒し」が共存するonly oneの地区を目指し挑戦する（try）をかけ、キャッチコピーを「おにたかとらい」とした。
	3	産業学習	各企業等	通年	産業技術に関する幅広い年代へのキャリア教育を目的とし、県内のものづくり企業と連携して事業を行っている。小中学生を対象に、企業等で働く人たちが仕事の内容や、やりがいなどを紹介する「産業学習in科学館」、中高生を対象に企業に直接出向く「企業見学会」や、館内を会場に、企業等で働く人たちから直接話を聞く「キャリアイメージ形成講座」などを実施。

関宿城博物館	1	関宿城さくらまつり	野田市関宿商工会等のさくらまつり実行委員会	令和7年4月6日	野田市関宿商工会が事務局となり、同商工会や当館等が実行委員会を組織して、地域振興を図るための毎年恒例のイベント。近年は、武者行列と城下市場等の物販を行い、関宿城博物館周辺の桜見物客の増加に結びついている。今年度の関宿さくらまつりでは、知事も参加し、武者姿を披露した。
	2	スタンプラリー「野田で富士山めぐり」等	野田市地域づくりネットワーク（当館を含む野田市内の14の博物館施設）	令和7年10月4日～12月20日	野田市郷土博物館が事務局となり、定期的に情報交換や普及事業を行う団体。市内博物館を巡るスタンプラリーのほか、市内博物館・見所を紹介するガイドマップの作成、バスハイク(2025/10/13他)を行っている。
	3	謎解きクイズラリー「むず難!?チーバくんとカッピの関宿探検隊」	周辺の店舗・博物館、周辺高校等	令和7年9月14日～11月30日	クイズラリーの正解者特典として配布するピンバッジを、協賛店舗・博物館等で見せると、オマケや割引等のサービスが受けられる。正解者に配布する地図には、協賛店舗・博物館等の情報のほか、周辺名所や文化財等も掲載し、地域周遊や地域振興を目的としている。 また、今後の事業改善のため、周辺高校等にモニター参加してもらい、意見を聴取している。
	4	野田市アウトドアスポーツフェスタ	野田市・野田スカイスports振興会・野田関宿カヌークラブ等	令和7年9月28日	野田市主催で、2年に1度開催される地域振興・スポーツ振興を図るイベント。当館隣接会場での開催を誘致し、協力団体として当館からブース出展、当館実施のクイズラリー参加を促した。
	5	関宿城博物館開館30周年イベント	周辺の音楽・舞踊団体、店舗、中学校、高校等	令和7年10月5日	当館の開館30周年を祝い、ステージショーやキッチンカー、物販テントを設置し、来館者サービスの充実を図った。また、セレモニーの受付・誘導については、高校生に協力してもらった。
	6	ユニセフ・ラヴウォークIN関宿城	千葉県ユニセフ協会	令和7年10月12日	千葉県ユニセフ協会主催事業であるラヴウォークを誘致し、当館周辺で実施した。ラヴウォークは、ユニセフ広報、地域振興・健康増進を目的とした事業で、今回は当館クイズラリーや当館見学を組み込んだウォーキングイベントとした。

房総のむら	1	3館合同 スタンプラリー	航空科学博物館 芝山古墳・はにわ博物館	令和7年7月19日～8月31日	地域活性化事業の一環として、空港を挟んだ博物館2館と連携し、来館者の確保と知名度を上げる目的で実施。航空科学博物館は理工系の博物館であり、芝山古墳はにわ博物館と房総のむらとは館の専門性の異なる博物館であるが、参加された家族連れの方からは好意的な意見を多くいただいた。
	2	歴史の里の音楽会	千葉交響楽団 千葉県文化振興財団	令和7年10月13日	国指定重要文化財「旧学習院初等科正堂」を会場として、千葉交響楽団による弦楽四重奏演奏会を開催。プロの演奏家がこぞって明治時代洋風建築である正堂の音響の良さを褒め、観客も正堂の雰囲気と素晴らしい音を堪能していた。
	3	ユニセフ・ラブ ウォーク in 房総のむら	千葉県ユニセフ協会	令和7年11月23日	園内外に設けた各ポイントを経由し歴史と自然を学びながらウォークラリーを毎年実施している。今年度も11月23日に実施予定。
	4	学校連携事業	県立八千代高校 県立成田西陵高校 県立栄特別支援学校	八千代高校：令和7年5月5日 成田西陵高校：令和7年5月3日 栄特別支援学校：令和7年11月3日	八千代高校：和太鼓演奏(春のまつり) 成田西陵高校：生産物の販売(春のまつり) 栄特別支援学校：生産物の販売(北総四都市デー)
	5	図書館連携事業	県立図書館 (中央、西部、東部)	令和7年8月2日，3日	むらの縁日夕涼みの演目「みんなで楽しむ昔ばなし」において、県立中央図書館職員が読み聞かせを実施した。

議事（2）多様な主体との連携施策について

① 県立博物館・美術館の連携

令和 6 年第 2 回千葉県博物館協議会における議題
「千葉県立美術館・博物館 5 館の連携と新たな取り組みについて」
に係る進捗状況を報告する。

博物館の研究員等が実施している調査研究活動の成果を、広く還元することを目的とした一般向けの公開講座。県立 5 館合同で、平成13年度より実施。

【令和 6 年度第 2 回協議会にていただいた主なご意見】

- ① 会場は持ち回りにすると良い
- ② 展示の時期と合わせて開催されるとより良い
- ③ 各館共通のテーマについてそれぞれの視点から紹介すると良い
- ④ オンライン開催したものをアーカイブで見られると良い
- ⑤ 参加者数を増やす努力を



御意見もふまえて工夫し、今年度も開催予定。

**①会場を中央博のみ
→ 2 館へ拡大**

**②企画展に関連したテーマ
(水生昆虫、水鳥)**

**③共通テーマで開催
房総の歴史/水辺・海辺の生物**

※御意見④⑤は今後の課題

令和 8 年 1 月 1 8 日 (日) @現代産業科学館

講演 1 武田郁也・研究員 (関宿城博) 『戦国時代の軍勢と恩賞』

講演 2 須田華那・研究員 (中央博) 『江戸時代の房総の社会』

令和 8 年 2 月 1 日 (日) @中央博物館

講演 1 樽宗一朗・研究員 (中央博) 『水辺の昆虫』

講演 2 平田和彦・研究員 (海博) 『海鳥は豊かな海のシンボル』

連携に係る実施項目の進捗状況

実施項目	概要	対応状況
①人的交流・情報交換の場の創出	若手職員を中心とした各館の学芸職員の情報交換の場を設ける。	若手職員の研修として他館見学、意見交換を検討中。
②ワークショップ及び展示の出張実施	本来の来館者層とは異なる層の来館者の誘致を図る。また、各館から遠方に在住する人たち向けに、近隣館で情報やサービスを提供する。	外部商業施設等で実施しているイベントを、他館と共同で実施することを検討中。
③SNSを使った広報での連携	各館で運用しているSNSを連携し、本来の来館者層とは異なる層の誘致を図るとともに、実際には来館しない層にも情報を波及させ、知名度の底上げを狙う。	「千葉学講座」に関連した資料の紹介や広報を、県立各館がSNSで連携・投稿することを検討中。
④デジタルサイネージを用いた県立博物館情報コーナー	各館に専用デジタルサイネージを設置し、自館だけでなく、他館の内容も含め、県立博物館全体の概要（活動内容や展示等）を紹介する。	県立各館における面的な展開が進むよう、引き続き、デジタルサイネージ等の予算措置を検討したい。
その他 R6年度第2回協議会での提案事項以外	【美術館の国際交流事業の展開】 美術館では千葉県と独・デュッセルドルフ市との姉妹提携に基づくアーティスト交流事業を行っている。この事業の中で、県立館の連携を活かした視察を行う。	令和7年度は、デュッセルドルフ市からアーティスト1名を受け入れる。来日予定者の希望も加味して、中央博物館 分館海の博物館を視察予定。

議事（２）多様な主体との連携施策について

② 県立博物館・美術館の取り組み

令和4年の博物館法改正においては、「博物館の地域の多様な主体との連携」が求められるようになった。

これを受けて各館においては、連携を重視した各取り組みを実施しているところである。これについて報告する。

千葉県立房総のむら



歴史の里の音楽会

実施日：10月13日
 連携先：千葉交響楽団
 国指定重要文化財「旧学習院初等科正堂」を会場として、弦楽四重奏演奏会を開催した。



ユニセフ・ラブウォーク IN 房総のむら

実施予定：11月23日
 連携先：千葉県ユニセフ協会
 館内外に設けた各ポイントを経由し歴史と自然を学びながらウォークラリーを毎年実施している。



3館合同スタンプラリー

実施日：7月19日～8月31日
 連携先：航空科学博物館・
 芝山はにわ博物館
 地域活性化事業の一環として、空港を挟んだ博物館2館と連携し、来館者の確保と知名度を上げる目的で実施した。



学校連携事業



実施日：まつり開催時
 連携先：八千代高校・成田西陵高校・
 栄特別支援学校
 和太鼓の演奏や生産物の販売を行った。



図書館連携事業

実施日：8月2・3日
 連携先：県立図書館（中央・西部・東部）
 むらの縁日夕涼みの演目「みんなで楽しむ昔ばなし」において、県立図書館職員が読み聞かせを実施した。

千葉県立関宿城博物館

1 関宿城さくらまつり 令和7年4月6日



野田市関宿商工会等と連携して、当館周辺で観光イベントを毎年春に実施。

地元商工会との連携

2 スタンプラリー「野田で富士山めぐり」

令和7年10月4日～12月20日



野田市内の14の博物館施設のネットワークによるスタンプラリー。他にはガイドマップ作成・バスハイクなどを実施。

周辺博物館との連携

3 謎解きクイズラリー「むず難!?チーバくんとカッピーの関宿探検隊」

令和7年10月14日～11月30日



周辺店舗・博物館に協賛いただき、地域周遊・振興を促すクイズを実施。またクイズモニターとして周辺高校等に協力いただいた。

周辺店舗・博物館・高校等との連携

4 野田市アウトドアスポーツフェスタ

令和7年9月28日



博物館横での気球・カヌー体験等のイベントを誘致。当館はクイズラリーを実施

野田市・スポーツ団体との連携

5 関宿城博物館開館30周年イベント

令和7年10月5日



周辺の音楽・舞踊団体・店舗・学校との連携

周辺の音楽・舞踊団、店舗・中学校等に働きかけ、ステージショー・キッチンカー・物販テントからなるイベントを実施。またセレモニーの受付・誘導については、高校生に協力してもらった。

6 ユニセフ・ラヴウォークIN関宿城

令和7年10月12日



千葉県ユニセフ協会との連携

千葉県ユニセフ協会と連携して、当館周辺の史跡を巡るウォーキングイベントを実施。

●展示・運営協力会

平成6年の開館当時から当館の活動の趣旨に賛同した企業、大学、研究機関等で組織され、館の様々な活動に協力している。

会員数92。（令和7年10月現在）

本年度は、8月9日（土）～8月24日（日）展示会「これでわかった！未来の技術2025」と題し、14の企業、大学等による展示会を開催。また、サイエンスショーや実験・工作教室を実施。



展示会の様子



実験・工作教室



サイエンスショー

各企業や大学の優れた産業技術を紹介する場となっており、キャリア教育の一助となっている。展示イベントに参加している企業、大学等からも好評を得ている。

●三者連携 おにたかとらい

当館と市川市生涯学習センター（主に図書館との連携）、ニッケコルトンプラザの三者の連携事業。キャッチコピーは「おにたかとらい」。3施設の所在地 鬼高地区と三者の(tri)、挑戦の(try)から名づけられた。

当館職員によるニッケコルトンプラザでの工作教室、図書館職員による当館での読み聞かせ、当館職員による図書館でのPOP展示、当館企画展に関連した読み聞かせなど、それぞれの強みをいかし、年間10回程度の事業を展開する。



コルトンでの工作教室



本のPOP展示



図書館職員による当館での読み聞かせと、当館企画展に関連した読み聞かせ



●産業キャリア教育

県内のものづくり企業と連携し、産業に応用された科学技術を紹介するとともに、やりがいを持って働くことの素晴らしさを知る機会を提供する。

○産業学習in科学館 6月
(同) HANAP（養蜂業・長生村）による講演会や、

ハチミツの試食、養蜂用具の展示等を実施。



産業学習in科学館は2月にも実施予定。

○キャリアイメージ形成講座 8月
SSHの高校生等対象。(有)大平技研の社員を講師に迎え、プラネタリウム投影機の開発や、その技術についての講座を実施。

○企業見学会 11月
中学生を対象に企業の見学会を開催。

見学先：エイブリック(株)（松戸市）・菊川工業(株)（白井市）・(株)協同工芸社（千葉市）

○その他
学校等でのプログラミング教室など

千葉県立中央博物館

連携協定に基づく他館との連携

歴博×中央博スタンプラリー（国立歴史民俗博物館）

開催期間：令和7年8月1日～9月28日

- ・令和6年4月に締結した包括連携協定に基づき実施
- ・「船」を共通テーマとして、関連展示をめぐるスタンプラリー
- ・両館スタンプラリー達成による景品配布実績：411個
→博物館同士の周遊を促進する効果があったと推察



近隣商業施設等との連携

アリオ博（アリオ蘇我）

- 開催日：令和7年奇数月第3土曜日（年6回）
- ・大型商業施設「アリオ蘇我」との合同イベント
 - ・特別展示・企画展示等に合わせたテーマで、クイズ大会やワークショップ等を実施



キッズ本格お仕事体験

（ハウジングプラザ千葉・青葉の森）

開催日：令和7年9月21日

- ・青葉の森公園隣接の住宅展示場主催イベントへの出展
- ・展示に合わせたワークショップ等を実施

新規顧客層の開拓を狙い、イベント参加者に来館特典
→イベント参加による来館動機の創出を図った

県内施設・地域との連携

図書館×中央博 （県立図書館）

講演会：令和7年7月26日
読み聞かせ：令和7年8月31日
・特別展の開催に合わせて、関連行事として講演会や子供向けの読み聞かせを実施
→図書館利用者への認知向上



申込受付を行う図書館のウェブサイト

千葉MLA連携 （県立図書館・文書館）

実施期間：令和7年4～6月
・大阪万博の開催に合わせ、博覧会等に関する資料紹介をそれぞれの施設の切り口で投稿、相互リポスト



あおばminiminiまつり （青葉の森公園）

開催日：令和7年6月11日
・博物館が立地する青葉の森公園主催のイベント
・特別展に合わせたワークショップや展示等を実施
→地域における博物館の認知度の向上、公園内施設の連携強化
→秋のまつりにも出展予定



自然誌フェスタ （房総の自然や歴史を探究する団体）

開催日：令和7年11月3日
・房総の自然や歴史を探究する団体と連携し、毎年博物館で開催
・出展団体がワークショップ等を実施
・中央博サークルも出展
→市民参画の場



千葉県立美術館

県内教育機関との連携

ミュージアムバス事業

開催日 9月24日 連携主体 柏市立藤心小学校

日ごろ本物の美術作品に触れる機会の少ない県内の小中学校に対して美術館に来てもらい美術作品を鑑賞する。(事前に学芸員が学校を訪れ、出前授業を行う。)



展示会に係る地域との連携

没後50年高島野十郎展 関連

- 1 開催日: 8月9日
連携主体: 地域の飲食店
関連イベント「満月夏まつり」に関する連携
- 2 開催日: 9月5日
連携主体: 千葉県文化振興財団、君津市、松本ピアノ・オルガン保存会
角野未来ナイトミュージアムコンサート



オランダ×千葉 撮る、物語る 関連

開催日 11月22日、23日、24日、
令和8年1月17日、18日
連携主体: 地域の飲食店等
「MUMA(ミュージアムマーケット)」に関する連携
飲食や古本等の販売



県内施設・地域との連携

夏休み企画の連携

開催日: 令和7年7月19日
連携主体(株)ZOZO
夏休み企画「ぐるぐる?アート夏休み」の関連行事としてワークショップを実施



ミュージアム コンサート

9月21日 千葉女子高校
12月14日 ジャズバンド
2月11日 千葉交響楽団



千葉みなと地域のイベントへの参加

「千葉市みなと活性化協議会」が主催する事業にワークショップ等で参加。
千葉みなとさんばしまつり
9月7日
・千葉湊大漁まつり 11月1日
・千葉みなと千夜市夜 12月6日
・ちばみなとクリスマスマーケット 12月21日

近隣飲食店との連携

タリーズコーヒー千葉みなと店との連携
展示会鑑賞特典
軒先珈琲との連携
休憩室での飲食の提携





千葉県立美術館 実施計画

(令和7年度～10年度)

令和7年3月
千葉県立美術館

目次

第1章	実施計画策定の基本的な考え方	P.1
1	計画策定の趣旨	P.1
2	総合指標と重点事業	P.1
3	活性化基本構想と実施計画の概要	P.2
第2章	4つの活動方針における事業計画	P.3
活動方針Ⅰ	新たな出会いと発見の場に	P.3
活動方針Ⅱ	県内のアートプロジェクトの拠点として	P.5
活動方針Ⅲ	次世代の感性を育成する場として	P.6
活動方針Ⅳ	サステイナブルな美術館に	P.7
第3章	目指す姿の実現に向けて	P.8
参考資料	重点事業の実施スケジュールと評価指標	P.9

1 計画策定の趣旨

千葉県では、県立美術館が美術館を取り巻く様々な動向、社会経済状況の変化に適応しながら、県民に寄り添った魅力ある美術館として生まれ変わるため、令和6年3月、今後の運営指針となる「千葉県立美術館活性化基本構想」を策定しました。

本計画は、この基本構想で示した理念、目指す姿を受けて、今後4年間(令和7年度～10年度)で取り組むべき事業計画について、4つの活動方針ごとに整理したものです。

2 総合指標と重点事業

「千葉県立美術館活性化基本構想」で示した理念、目指す姿を実現するため、今後4年間の総合的な目標として以下の「**総合指標**」を掲げました。また、特に重点的に取り組む事業を以下のとおり「**重点事業**」として整理しています。

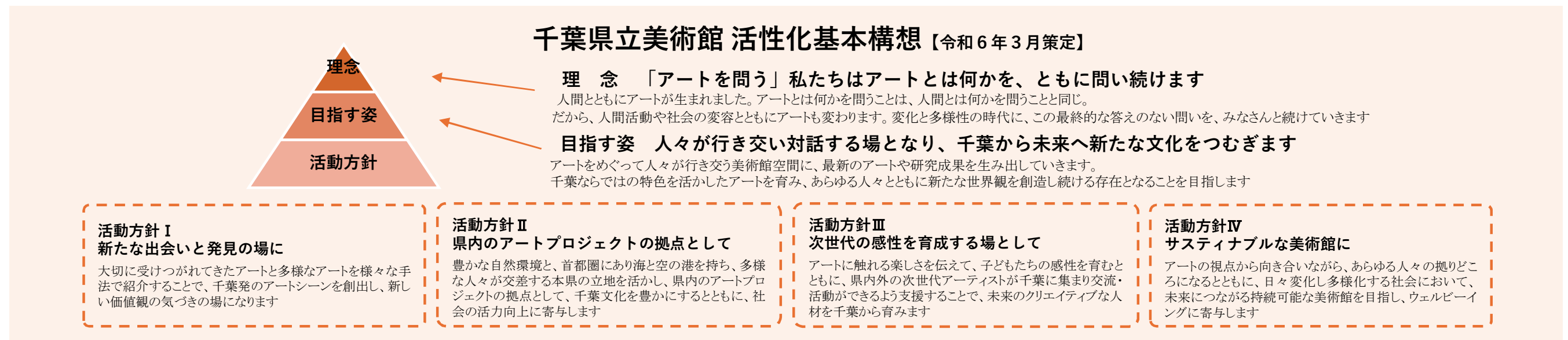
総合指標

	項目	指標	現状	令和10年度末の目標
総合指標1	県立美術館の認知度	「知っている」と回答した県民の割合	40.1% (R6年度 文化芸術への意識に関するアンケート調査)	50%
総合指標2	県立美術館の利用満足度	「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4年度 世論調査)	60%
総合指標3	年間入館者数	3年間の入館者数の平均	99,164人 (R3～5年度平均)	120,000人

重点事業

- 重点1** 地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート
- 重点2** 房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化
- 重点3** 国内外のアーティストとの交流の場の創出
- 重点4** アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出
- 重点5** 多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム
- 重点6** 学校教育との連携による美術教育の拡充
- 重点7** 資料のデジタルアーカイブ化、**SNS**等を活用した積極的な情報発信
- 重点8** 様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備
- 重点9** 館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全
- 重点10** アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出

3 活性化基本構想と実施計画の概要



実施計画（令和7～10年度） 活性化基本構想の理念・目指す姿を実現するため、令和7～10年度に取り組む事業をまとめたもの

展 示

重点1 地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート

- ・千葉ならではの自然・歴史・文化を活かしたアートプロジェクト
- ・近隣施設とのコラボレーションによる地域活性化への貢献
- ・現代アートや気鋭のアーティストの紹介
- ・他分野とのコラボレーション



撮影：みさこみさこ

収集保管・調査研究

重点2 房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化

- ・コレクションを魅力的に魅せる常設展示コーナーの検討
- ・外部機関との連携によるコレクション研究の深化
- ・コレクションに関する企画展示・講演会
- ・コレクショングッズの開発・SNS等による発信



交流・教育普及①

重点3 国内外のアーティストとの交流の場の創出

- ・ドイツとのアーティスト交換・滞在制作
- ・オープンスタジオ、アーティストトーク、ワークショップ
- ・市町村・企業・他のアートプロジェクトとの連携



交流・教育普及②

重点4 アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

- ・夏休み等に子どもたちへアトリエ開放・創作体験の場を提供
- ・アーティストによるワークショップ
- ・大学生をはじめとするボランティアの指導・交流



交流・教育普及③

重点5 多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム

- ・展示の理解を深めるギャラリートーク、ワークショップ、講演会
- ・アーティストによるワークショップ、トークイベント
- ・子ども向けアート体験コーナー新設



交流・教育普及④

重点6 学校教育との連携による美術教育の拡充

- ・学校向けプログラムの充実
- ・教員向け研修コンテンツの充実
- ・学校と美術館を結ぶバスの導入



環境整備①

重点7 資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信

- ・約4500件の資料の計画的なデジタルアーカイブ化
- ・コレクションの魅力を伝えるデジタルコンテンツの公開
- ・ホームページリニューアルによる発信強化
- ・SNS等を活用した発信

環境整備②

重点8 様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備

- ・様々な特性を持つ人に配慮した展示方法の改善（平易な解説文、鑑賞しやすい照明）
- ・ガイドシステム等多言語化の検討
- ・様々な人が体験・交流できる彫刻展等の事業展開

環境整備③

重点9 館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全

- ・館全体の施設整備に向けた検討
- ・コレクションを次世代に受け継ぐための収蔵施設の整備

環境整備④

重点10 アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出

- ・ゆっくりアートを鑑賞したり交流したりできる憩いの空間の整備
- ・既存建築を活かした魅力的な美術館空間
- ・レストラン・ショップ等アメニティ部分の改善・充実

活性化基本構想

活動方針Ⅰ 新たな出会いと発見の場に

大切に受けつがれてきたアートと多様なアートを様々な手法で紹介することで、千葉発のアートシーンを創出し、新しい価値観の気づきの場になります

1 事業内容

(1) 世界の潮流を捉えたアートを活用し、おどろきと感動が得られる千葉発のアートシーンを創出します

- ①多様な主体との協働プロジェクトの実施
- ②野外空間を活用したアートの創出
- ③他分野とアートの融合
- ④国内外のアーティストとの交流の場の創出

ア.他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアートの紹介 重点1

現代アートや写真、漫画・イラスト等の新しい分野を紹介する展覧会を開催するとともに、ダンス・軽音楽アーティストのパフォーマンスイベントなど、展示以外の場面でも他分野とのコラボレーションを図り、他分野とアートの融合を積極的に展開します。

国内外のアートの潮流を敏感にキャッチし、展覧会やイベント等を通じて世界的に活躍するアーティストや新進気鋭の若手アーティストを紹介することで、おどろきと感動が得られる千葉発のアートシーンを創出します。

イ.多様な主体との協働プロジェクト

他の美術館との協働企画展の開催や、スクールプログラムの充実など、他の美術館や学校、企業等との積極的な連携・協働により、展示・教育普及・研究等の美術館活動のさらなる発展を目指すとともに、新しい視点を取り入れながら千葉ならではのアートを創造します。

ウ.地域の特色を活かしたアートプロジェクト 重点1 再掲 P.8 活動方針Ⅱ

エ.国内外のアーティストとの交流の場の創出 重点3 再掲 P.10 活動方針Ⅲ

(2) デジタル技術を活用して、情報発信や、新しいアート体験を創出します

- ①デジタル技術を活用したアートと鑑賞体験の創出
- ②デジタル技術を活用した積極的な情報発信
- ③資料のデジタルアーカイブ化

ア.資料のデジタルアーカイブ化・公開 重点7

約4500件の収蔵作品、研究資料について、資料の撮影や登録情報の整備、英訳など、デジタル化の前提となる作業を計画的に進めるとともに(年間約300件程度)、オンライン上で公開していくことで、コレクションの魅力や研究成果を広く発信し県民に還元します。

イ.SNS等を活用した積極的な情報発信 重点7

公式ホームページのリニューアル、SNS等を活用した情報発信の強化により、美術館活動をより分かりやすく周知し、県内外にアート情報をより広く早く届けることで、あらゆる人々がより美術館やアートの魅力に親しめる環境をつくります。

ウ.デジタル技術を活用したアートと鑑賞体験の創出

デジタルアーカイブ化した資料を活用して新たな鑑賞体験を創出するほか、海外在住アーティストをウェブで繋げたアーティストトークの実施などを通じて、地域と都市、世界を繋ぎ、あらゆる人々が身近な環境の中で文化芸術に触れられる場面を創出します。

(3) 様々なニーズに合わせた体験を提供します

- ①多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラムの実施
- ②世代に合わせた講座や体験プログラムの実施
- ③様々な特性を持つ人々への対応

ア.多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム 世代に合わせた講座や体験プログラムの実施 重点5

展示の理解をより深めるワークショップやギャラリートーク、講演会、アーティストが手掛けるワークショップやトークイベントなど、様々な経験の違いや世代に応じた体験プログラムを充実し、誰もがアートを楽しめる機会を用意します。

イ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出 重点4 再掲 P.11 活動方針Ⅲ

ウ.様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備 重点8 再掲 P.12 活動方針Ⅳ

(4) 県ゆかりから新たな分野までの作品を収集・研究し、その価値の向上に努めます

- ①房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化
- ②アーティストの顕彰と活動支援
- ③時代に合わせたコレクションの拡充

ア.房総の美術をはじめとするコレクションの紹介・価値の向上 重点2

コレクションをより魅力的に魅せる常設展示コーナーの新設を検討する他、研究成果を生かした企画展示や、コレクショングッズの開発、SNS等の活用により、コレクションの魅力を積極的に発信し、県民の財産であるコレクションの価値の向上に貢献します。

イ.コレクション研究の深化 重点2

代表的なコレクションである浅井忠とこれに関わりのある作家や金工などを中心に、他美術館や外部機関との連携を図りながら研究を深化させ、研究紀要の刊行等によりその成果を発信します。また、展示・講演会・シンポジウム等に研究成果を活用することでその魅力を積極的に発信し、県民の財産であるコレクションの価値向上に貢献します。

ウ.県ゆかりのアーティストの顕彰と活動支援

ドイツとのアーティスト交換事業、アーティスト・フォローアップ事業等とも連携しながら、県ゆかりのアーティストを紹介する展覧会やワークショップ等の開催を通じてその活躍の場を広げ、若手からベテランまで県ゆかりのアーティストの活動を支援していきます。

エ.時代に合わせたコレクションの拡充

作品収集方針・管理要領を時代に即した内容へ見直し、収蔵環境の修繕等を進めることでコレクションの管理環境を整えていきます。現代アートなど新しい分野の収集も推進し、県民の財産であるコレクションの充実とさらなる活用を図ります。



▲地域の特色を活かしたアートプロジェクトや近隣施設とのコラボレーションにより地域活性化に貢献



浅井忠(あさい ちゅう)『漁婦』明治30年

▲▶当館を代表する豊かな房総の美術史コレクションの価値向上に貢献



香取秀真(かとり ほうま)『鳩香炉』昭和24年



◎ロッカクアヤコ

ロッカクアヤコ『Untitled』令和2年

▲現代アートなど新しい分野のアートも積極的に紹介

2 実施スケジュール

	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなとと地域のイベントへの参加、近隣施設等との連携	参画拡大・連携強化		
	他分野とアートの融合 世界の潮流を捉えたアート	写真など新しい分野を紹介する展覧会	千葉みなとの海をテーマにした展覧会 イラストなど新しい分野を紹介する展覧会	海景画をテーマにした展覧会 現代アートをテーマにした展覧会 世界的に活躍するアーティストの展覧会	ファッションとアートをテーマにした展覧会 最先端の技術を活用したアートの展覧会
重点2	房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化	・コレクション展示コーナーのスポット導入 ・企画展・特別展と合わせたコレクション関連展示の実施 ・我孫子と民藝運動、神谷紀雄に関する調査・研究 ・千葉ゆかりのアーティスト・コロニー、大高正人に関する調査・研究	徐々に拡大		常設のコレクション展示コーナーを設置
			研究成果を生かした展示、講座等	研究成果を生かした展示、講座等	研究紀要を再刊し、4年間の調査研究の成果を発表
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ ・R6、R8派遣アーティストとのセッション	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ
			・企業や市町村との連携を検討	・企業や市町村と連携した事業展開	
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	・夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放 ・アーティストによるワークショップ ・ボランティアの関わり検討 ・小学生向けサポートプログラムの検討	アーティストの参画拡大・多様な主体との連携等によるプログラムの充実		
			・ボランティアによるサポート等の実施・拡大 ・小学生向けサポートプログラムの実施 ・中・高生向けサポートプログラムの検討	・中・高生向けサポートプログラムの実施	
重点5	多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	・展覧会の理解を深める体験プログラムの実施 ・アーティスト・ワークショップの実施 ・子ども向けアート体験コーナーの検討・設置	コレクション展示コーナーの拡大に合わせて充実		
			・コレクションの理解を深める体験プログラムの企画・アーカイブ		
重点7	資料のデジタルアーカイブ化 SNS等を活用した積極的な情報発信	・デジタルアーカイブ化（浅井300件・ベストコレクション100件）・デジタルコンテンツの公開 ・ホームページリニューアル作業（コレクション紹介を中心に）	年間300件		
			・デジタルアーカイブ化（浅井など300件） ・デジタルコンテンツの公開 ・ホームページリニューアル作業（過去50年の刊行物公開を中心に）		
			・次期システム更新に向けた課題整理（国内外の主要サイトとの相互リンク等）		
			・次期システム移行に向けた更新作業		

活性化基本構想

活動方針Ⅱ 県内のアートプロジェクトの拠点として

豊かな自然環境と、首都圏にあり海と空の港を持ち、多様な人々が交差する本県の立地を活かし、県内のアートプロジェクトの拠点として、千葉文化を豊かにするとともに、社会の活力向上に寄与します

1 事業内容

(1) 県内アートをプロデュース・支援し、アートシーンの中心となります

- ①県内各地で実施されるアートプロジェクトとの連携、協働
- ②千葉みなと地域との連携
- ③アートコミュニティの形成支援

ア.地域の特色を活かしたアートプロジェクト

重点1

千葉みなとの海を舞台にした展覧会の開催など、回遊型展覧会や近隣施設とのコラボレーション、イベントへの参画等を通じて、本県ならではの自然と歴史・文化を活かしたアートプロジェクトを展開し、アートの力で地域の魅力を高め地域の活性化に貢献します。

イ.国内外のアーティストとの交流の場の創出

重点3

再掲

P.10 活動方針Ⅲ

ウ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

重点4

再掲

P.11 活動方針Ⅲ

(2) アートについて様々な関心をもった人々が行き交う場を用意します

- ①アーティスト同士の交流の機会の創出
- ②創作体験の機会の提供
- ③アートを媒介としたコミュニティの形成

ア.アートを媒介としたコミュニティの形成支援

展覧会やイベント等のアートプロジェクトへのボランティア、サポーターの参画を拡大し、大学生サポーターを新設するなどその対象を広げていく他、県の障害者芸術文化活動支援センター等、多様な団体との交流を通じて、アートを媒介としたコミュニティの形成を支援します。

イ.国内外のアーティストとの交流の場の創出

重点3

再掲

P.10 活動方針Ⅲ

ウ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

重点4

再掲

P.11 活動方針Ⅲ



▲ドイツとのアーティスト交換・滞在制作を実施
アーティストトーク等を通じた交流や、県内市町村、他のアートプロジェクトとの連携も



▲夏休み等にアトリエ棟を子どもたちに開放
アーティストやボランティアとの交流により
出会いの場を創出

(3) 唯一の県立美術館として、県内各地域、学校、企業など多様な主体と連携します

- ①多様な主体との協働プロジェクトの実施(再掲)
- ②県内各地域との連携
- ③美術団体との連携

ア.県内各地域・美術団体との連携、活動支援

県内の市町村施設を会場とした移動美術館の開催や、音楽など県内で活動している他分野の組織との連携などを通じて、アートの力を活かした地域活性化に貢献します。千葉県美術展覧会(県展)等、県内の美術団体・コミュニティと連携・協力しながら展示・教育普及活動を行うとともに、その活動を支援します。高等学校文化連盟等との連携により学生たちの活動を支援し、未来のクリエイティブな人材を育てていきます。

イ.国内外のアーティストとの交流の場の創出

重点3

再掲

P.10 活動方針Ⅲ

ウ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

重点4

再掲

P.11 活動方針Ⅲ

2 実施スケジュール

活動方針	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなと地域のイベントへの参加、近隣施設との連携	参画拡大・連携強化		
			千葉みなとの海をテーマにした展覧会	海景画をテーマにした展覧会	
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ ・R6、R8派遣アーティストとのセッション	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ ・企業や市町村と連携した事業展開
			・企業や市町村との連携を検討		
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	・夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放 ・アーティストによるワークショップ ・ボランティアの関わり検討 ・小学生向けサポートプログラムの検討	アーティストの参画拡大	多様な主体との連携等によるプログラムの充実	
			・ボランティアによるサポート等の実施・拡大 ・小学生向けサポートプログラムの実施 ・中・高生向けサポートプログラムの検討		・中・高生向けサポートプログラムの実施

3 評価指標

	項目	指標	現状	令和10年度末の目標
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	連携企画の回数 年5回	連携企画の回数 年8回
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	—	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数 100人
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者	—	参加した子どもの人数 100人 ボランティアの人数 30人

活性化基本構想

活動方針Ⅲ 次世代の感性を育成する場として

アートに触れる楽しさを伝えて、子どもたちの感性を育むとともに、県内外の次世代アーティストが千葉に集まり交流・活動ができるよう支援することで、未来のクリエイティブな人材を千葉から育みます

1 事業内容

(1) アートに触れる楽しさを伝えて、子どもたちの感性を育みます

- ①想像力を育み感性を刺激する鑑賞、体験プログラムの実施
- ②学校教育との連携による美術教育の拡充
- ③多様な主体との協働プロジェクトの実施(再掲)

ア.想像力を育み感性を刺激する鑑賞、体験プログラムの実施 重点5

子ども向けアート体験コーナーの新設や、「みちのにわ」など子どもでも気軽にアートに触れられる環境を整えるとともに、アーティストによるワークショップや展覧会の理解を深めるワークシートなど子ども向け体験プログラムを充実し、アートの無限の可能性を伝え、未来を担う子どもたちの感性を育てていきます。

イ.学校教育との連携による美術教育の拡充 重点6

学校と美術館を結ぶバスなど、学校団体の利用を促進する事業を検討するとともに、学校向けのプログラムや、教員の美術館利用をサポートする研修コンテンツ等の充実を図り、学校教育との連携によりアートと子どもたちとの距離を近づけます。

ウ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出 重点4 再掲 P.11 活動方針Ⅲ

(2) 様々な方策で若手アーティストを支援し、地域のアートを育てていきます

- ①滞在制作プログラムの継続的な実施・支援
- ②アーティスト連携や県民参画によるプログラムの実施
- ③県内アーティスト、美術団体への活動支援

ア.国内外のアーティストとの交流の場の創出 重点3

県の姉妹都市であるドイツ・デュッセルドルフ市とのアーティスト交換事業により、国内外のアーティストによる滞在制作の場を設け、オープンスタジオやアーティストトーク、ワークショップ等を通じてアーティストと交流できる機会を創出します。県内の市町村・企業や、他のアートプロジェクトとの連携を検討し、アーティストの交流のハブとなることを目指します。

イ.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出 重点4 再掲 P.11 活動方針Ⅲ

ウ.県内各地域・美術団体との連携、活動支援 再掲 P.9 活動方針Ⅱ



▲多様なニーズに応じた体験プログラムを充実

▼子どもでも気軽にアートに触れられる環境を整備



▲学校向けプログラムの充実等、学校との連携により美術教育を拡充

(3) アートについて様々な関心をもった人々が行き交う場を用意します(再掲)

- ①アーティスト同士の交流の機会の創出(再掲)
- ②創作体験の機会の提供(再掲)
- ③アートを媒介としたコミュニティの形成(再掲)

ア.アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出 重点4

夏休み等にアトリエ棟を子どもたちに開放することで創作体験の機会を提供します。県内若手アーティストや、大学生をはじめとするボランティアサポーター等による指導・交流を実施することで、未来を担う子どもたちの感性を育むとともに、アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場を創出し、アートを媒介としたコミュニティの形成を支援します。

イ.国内外のアーティストとの交流の場の創出 重点3 再掲 P.10 活動方針Ⅲ

ウ.アートを媒介としたコミュニティの形成支援 再掲 P.8 活動方針Ⅱ

2 実施スケジュール

活動方針	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ ・R6、R8派遣アーティストとのセッション	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ ・企業や市町村と連携した事業展開
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	・夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放 ・アーティストによるワークショップ ・ボランティアの関わり検討 ・小学生向けサポートプログラムの検討	・企業や市町村との連携を検討	・ボランティアによるサポート等の実施・拡大 ・小学生向けサポートプログラムの実施 ・中・高生向けサポートプログラムの検討	・多様な主体との連携等によるプログラムの充実 ・中・高生向けサポートプログラムの実施
重点5	想像力を育み感性を刺激する鑑賞、体験プログラムの実施	・子ども向けアート体験コーナーの検討・設置 ・展覧会の理解を深める子ども向けプログラム	・アーティストの参画拡大・多様な主体との連携等によるプログラムの充実	・コレクションの理解を深める子ども向けプログラムの企画・アーカイブ	・コレクション展示コーナーの拡大に合わせて充実
重点6	学校教育との連携による美術教育の拡充	・学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入(3校程度) ・学校向けプログラムの開発・学校との協議 ・教員向け研修コンテンツの検討・学校との協議	・学校向けプログラムの試験的な導入 ・教員向け研修の試験的な実施	・対象地域・本数の拡大	・コレクション展示コーナーの拡大に合わせて充実

3 評価指標

	項目	指標	現状	令和10年度末の目標
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	—	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数100人
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者	—	参加した子どもの人数100人 ボランティアの人数30人
重点5	多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	展示関連ワークショップ・講演会等の体験プログラムの開催数	年15回	年20回以上
重点6	学校教育との連携による美術教育の拡充	学校団体の利用数	5校 (R4～6年度平均)	15校

活動方針Ⅳ サスティナブルな美術館に

活性化基本構想

アートの視点から向き合いながら、あらゆる人々の拠りどころになるとともに、日々変化し多様化する社会において、未来につながる持続可能な美術館を目指し、ウェルビーイングに寄与します

1 事業内容

(1) 多様性が尊重され、あらゆる人々の拠りどころとなります

- ①あらゆる利用者モデルを想定した事業の実施
- ②障害の有無等を問わない継続的な芸術活動の支援
- ③あらゆる人々にやさしい環境の整備

ア.様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備 重点8

平易な解説文や鑑賞しやすい照明など展示方法の改善や、ガイドシステムの検討など多言語化対応を進めます。触れる彫刻展などあらゆる利用者モデルを想定した事業を展開し、子どもや障害のある方、外国人などの様々な特性を持つ人に寄り添い、誰もがアートに触れられるインクルーシブな美術館を目指します。

イ.障害の有無等を問わない芸術活動の支援

県の障害者芸術文化活動支援センター等、多様な団体と連携し、作品発表の場の提供や交流の場の創出、触れる彫刻展などさまざまな利用者モデルを想定した鑑賞・体験プログラムを充実することで、障害のある人もない人も誰もがアート活動に従事し楽しめるよう支援していきます。

(2) 多様な主体や地域のパートナーとともに、社会的課題の解決に貢献します

- ①社会的課題への関心を喚起させる活動の展開
- ②アートを通じた活動による社会的課題解決への貢献
- ③文化観光の拠点として、地域の活性化に寄与する事業の展開

ア.障害者施設・高齢者施設・医療施設等との連携による社会的課題解決への貢献

障害者施設、高齢者施設、医療施設など様々な団体と協働し、団体利用の促進等によりアートやアーティストの思いに触れる機会を増やしていくことで、美術館の活動を通じてアートの力でウェルビーイングに寄与します。

イ.地域の特色を活かしたアートプロジェクト 重点1 再掲 P.8 活動方針Ⅱ

ウ.障害の有無等を問わない芸術活動の支援 再掲 P.12 活動方針Ⅳ

(3) 未来につながる美術館を実現する基盤を整備します

- ①収蔵環境の整備と作品保全
- ②人員確保と育成、外部人材活用や人員交流による活力維持
- ③アメニティ設備の整備、充実による良好な美術館空間の創出

ア.館全体の施設整備に向けた検討 重点9

作品管理、展示、教育普及などの活動、建物内外の来館者導線、ショップやレストランなど付帯施設等の在り方を再検討して、美術館全体の施設整備を進めるための検討をしていきます。

イ.収蔵環境の整備と作品保全 重点9

収蔵庫空調の更新や展示備品の更新等、収蔵施設・展示施設の設備改善により、コレクションの適切な保存環境を整えるとともに、美術館全体の施設整備計画に基づき、収蔵スペース不足を抜本的に解決する収蔵施設の整備を進め、県民の財産であるコレクションを大切に次世代に受け継ぎます。

ウ.アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出 重点10

子ども向けの空間整備など、ゆったりアートを鑑賞したり交流したりできる憩いの空間を整備するとともに、展覧会と連携したメニューの企画やミュージアムグッズの充実等により、レストランやショップをはじめとするアメニティ部分の改善を図り大高正人設計の建物の特徴を活かした魅力的な美術館空間を創出します。

エ.県立美術館のブランディングと発信、人員確保と育成、外部人材活用や人員交流

民間出身の副業人材を活用し、統一したイメージやデザインで美術館のブランディングを進めるとともに、広報業務の外部委託などにより効果的な発信を続けることで、美術館の存在価値を高めていきます。

他機関との人材交流や外部人材の活用により美術館活動の充実を図るとともに、研修への積極的な参加を通じて美術館を支える人材の能力向上に継続的に取り組み、未来につながる美術館を目指します。

2 実施スケジュール

活動方針	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなと地域のイベントへの参加、近隣施設等との連携	参画拡大・連携強化		
			千葉みなとの海をテーマにした展覧会	海景画をテーマにした展覧会	
重点8	様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	・平易な解説文など展示方法の改善・合理的配慮 ・ガイドシステムの導入検討 ・施設整備の検討とあわせて館内サインの多言語化の検討・実施 ・デジタルコンテンツへの英語解説付与 ・触れる彫刻展などのワークショップの実施	研修等による職員の意識・スキル向上		
			・ガイドシステムの試験的な導入 ・展示内容に応じて作品紹介・解説の多言語化の検討・実施	・ガイドシステムの本格導入	
			デジタル化とあわせて年300件程度実施		
			障害者施設・団体等との連携により充実		
重点9	館全体の施設整備に向けた検討 収蔵環境の整備と作品保全	・施設整備の検討・調整 ・パークとの回遊性向上のための設計・施工 ・収蔵庫・展示室の設備改善 ・作品管理要領の見直し			
重点10	アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	・憩いの空間の整備 ・レストラン・ショップの設備整備 ・コレクション関連グッズの開発、レストランメニューの充実			
			・作品の整理保存・修復		
			・レストラン・ショップの選定方法の見直し		
			企業等との連携による充実		

3 評価指標

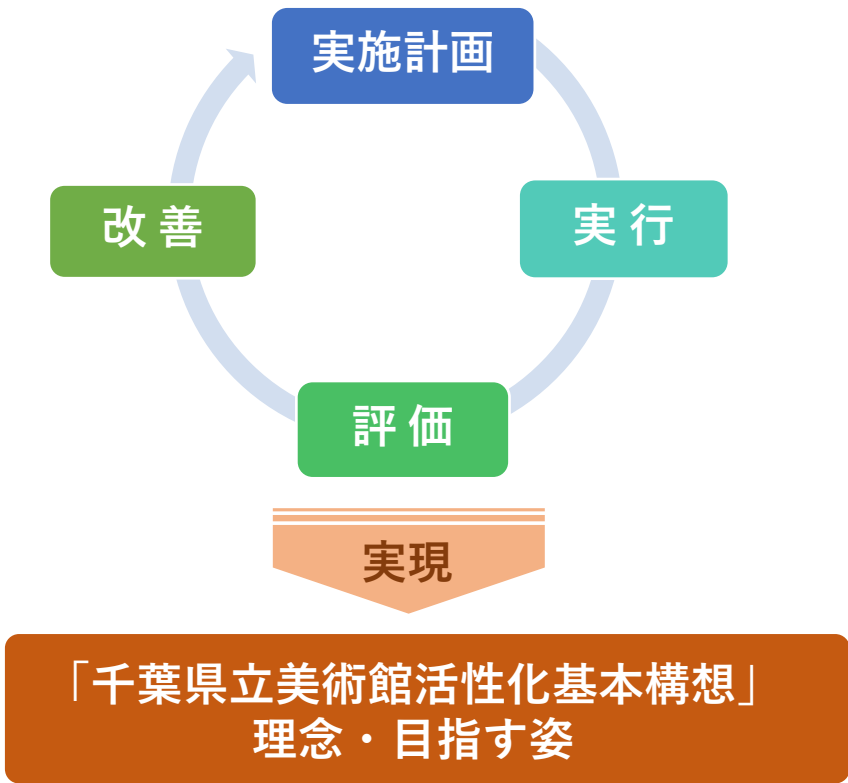
	項目	指標	現状	令和10年度末の目標
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	連携企画の回数 年5回	連携企画の回数 年8回
重点8	様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	障害者等との交流プログラム開催回数	－	年4回以上
重点9 重点10	館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全、アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4年度 世論調査)	60%

「千葉県立美術館活性化基本構想」に掲げる理念・目指す姿を実現するためには、本計画の実施状況を点検・分析し、必要な改善に取り組むことが重要です。

当館では、事業の実施状況や達成度などを分析し、課題を把握する「評価」を毎年度実施します。まずは、自己点検をおこなった上で、有識者による評価を実施します。その上でさらに千葉県博物館協議会の視点による意見を聴くことで、評価の客観性・統一性の確保に努めます。この評価により、職員の意識向上を図り、必要となる「改善」を次年度以降の活動に柔軟に反映させていきます。

これらの評価・改善を継続的に実施することにより、「千葉県立美術館活性化基本構想」に掲げた理念・目指す姿の実現に向けた取組を推進していきます。

なお、評価結果はホームページを通じて県民に公表します。



重点事業の実施スケジュール

	項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト	千葉みなとと地域のイベントへの参加、近隣施設等との連携	参画拡大・連携強化		
	他分野とアートの融合 世界の潮流を捉えたアート	写真など新しい分野を紹介する展覧会	千葉みなとの海をテーマにした展覧会 イラストなど新しい分野を紹介する展覧会	海景画をテーマにした展覧会 現代アートをテーマにした展覧会 世界的に活躍するアーティストの展覧会	ファッションとアートをテーマにした展覧会 最先端の技術を活用したアートの展覧会
重点2	房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化	・コレクション展示コーナーのスポット導入 ・企画展・特別展と合わせたコレクション関連展示の実施 ・我孫子と民藝運動、神谷紀雄に関する調査・研究 ・千葉ゆかりのアーティスト・コロニー、大高正人に関する調査・研究	徐々に拡大		常設のコレクション展示コーナーを設置
			研究成果を生かした展示、講座等	研究成果を生かした展示、講座等	研究紀要を再刊し、4年間の調査研究の成果を発表
			海にちなんだアートに関する調査・研究	研究成果を生かした展示、講座等	研究成果を生かした展示、講座等
重点3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ	・ドイツからのアーティスト受入れ オープンスタジオ ワークショップ ・R6、R8派遣アーティストとのセッション	・ドイツへのアーティスト派遣 アーティストトーク ワークショップ
			・企業や市町村との連携を検討		・企業や市町村と連携した事業展開
重点4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	・夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放 ・アーティストによるワークショップ ・ボランティアの関わり検討 ・小学生向けサポートプログラムの検討	アーティストの参画拡大・多様な主体との連携等によるプログラムの充実		
			・ボランティアによるサポート等の実施・拡大 ・小学生向けサポートプログラムの実施 ・中・高生向けサポートプログラムの検討	・中・高生向けサポートプログラムの実施	
重点5	多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	・展覧会の理解を深める体験プログラムの実施 ・アーティスト・ワークショップの実施 ・子ども向けアート体験コーナーの検討・設置	・コレクションの理解を深める体験プログラムの企画・アーカイブ	コレクション展示コーナーの拡大に合わせて充実	
重点6	学校教育との連携による美術教育の拡充	・学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入（3校程度） ・学校向けプログラムの開発・学校との協議 ・教員向け研修コンテンツの検討・学校との協議	・学校向けプログラムの試験的な導入 ・教員向け研修の試験的な実施	コレクション展示コーナーの拡大に合わせて充実	
重点7	資料のデジタルアーカイブ化 SNS等を活用した積極的な情報発信	・デジタルアーカイブ化（浅井300件・ベストコレクション100件） ・デジタルコンテンツの公開 ・ホームページリニューアル作業（コレクション紹介を中心に）	・デジタルアーカイブ化（浅井など300件） ・デジタルコンテンツの公開 ・ホームページリニューアル作業（過去50年の刊行物公開を中心に） ・次期システム更新に向けた課題整理（国内外の主要サイトとの相互リンク等）	年間300件	
					・次期システム移行に向けた更新作業

	項 目	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 1 0 年度
重点 8	様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	・平易な解説文など展示方法の改善・合理的配慮 ・ガイドシステムの導入検討 ・施設整備の検討とあわせて館内サインの多言語化の検討・実施 ・デジタルコンテンツへの英語解説付与 ・触れる彫刻展などのワークショップの実施	研修等による職員の意識・スキル向上		
			・ガイドシステムの試験的な導入 ・展示内容に応じて作品介绍・解説の多言語化の検討・実施	・ガイドシステムの本格導入	
重点 9	館全体の施設整備に向けた検討 収蔵環境の整備と作品保全	・施設整備の検討・調整 ・パークとの回遊性向上のための設計・施工 ・収蔵庫・展示室の設備改善 ・作品管理要領の見直し	デジタル化とあわせて年300件程度実施		
			障害者施設・団体等との連携により充実		
重点 10	アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	・憩いの空間の整備 ・レストラン・ショップの設備整備 ・コレクション関連グッズの開発、レストランメニューの充実	・作品の整理保存・修復		
			・レストラン・ショップの選定方法の見直し	企業等との連携による充実	

評価指標

	項 目	指 標	現 状	令和10年度末の目標
総合 指標 1	県立美術館の認知度	「知っている」と回答した県民の割合	40.1% (R6年度 文化芸術への意識に関するアンケート調査)	50%
総合 指標 2	県立美術館の利用満足度	「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4年度 世論調査)	60%
総合 指標 3	年間入館者数	3年間の入館者数の平均	99,164人 (R3～5年度平均)	120,000人
重点 1	地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	連携企画の回数 年5回	連携企画の回数 年8回
重点 2	房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化	研究成果を生かした展覧会・コレクションに関する体験プログラム	－	図録への論考掲載 2件以上 コレクションに関する体験プログラム数 10件
重点 3	国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	－	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数 100人
重点 4	アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者	－	参加した子どもの人数 100人 ボランティアの人数 30人
重点 5	多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	展示関連ワークショップ・講演会等の体験プログラムの開催数	年15回	年20回以上
重点 6	学校教育との連携による美術教育の拡充	学校団体の利用数	5校 (R4～6年度平均)	15校
重点 7	資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信	デジタル化・公開件数 デジタルコンテンツのアクセス数	解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開 ー アクセス数 ー	解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開 計1,300点 アクセス数 年5,000件
重点 8	様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	障害者等との交流プログラム開催回数	－	年4回以上
重点 9 10	館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全、アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4年度 世論調査)	60%

千葉県立美術館 実施計画

(令和7年度～10年度)

令和7年3月策定

発行 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉県千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311 FAX 043-241-7880



千葉県立中央博物館 実施計画 (令和7年度～10年度)

令和7年3月
千葉県立中央博物館

目 次

第1章	計画策定の基本的な考え方	P.1
第1節	計画策定の背景と趣旨	P.1
第2節	みらい計画（上位計画）の概要	P.2
第3節	本計画の構成と総合的目標	P.3
第4節	本計画の位置づけと概要	P.4
第2章	重点事業	P.6
第1節	千葉の海の魅力を探り、国内外に発信	P.6
第2節	世界とのつながりを意識した活動	P.8
第3節	他機関との連携強化	P.10
第4節	デジタル技術の活用	P.12
第5節	資料を未来に引き継ぐ	P.14
第3章	基盤事業	P.16
第1節	収集・保管	P.16
第2節	調査・研究	P.17
第3節	展示・教育普及	P.18
第4章	評価指標	P.19
第5章	運営体制	P.20
第6章	進行管理	P.21
参 考	博物館事業別の取組	P.22

第1節 計画策定の背景と趣旨

博物館をとりまく社会情勢の変化を背景とし、令和4年には博物館法が改正され、地域連携、文化振興・地域振興、資料のデジタル化の3項目が努力義務とされるなど、博物館にはこれまでの役割に加え、これからの時代に必要とされる機能をより強化することが求められるようになりました。

千葉県では、これを踏まえ県立博物館が抱える現状と課題、これからの県立博物館のあるべき姿を整理し、千葉県立中央博物館のリニューアルを見据えた基本計画として、令和6年3月に「**千葉県立中央博物館みらい計画**」を策定しました。

「千葉県立中央博物館みらい計画」の指し示す、基本コンセプト、目指す姿、取組の方針を受け、今後4年間（令和7年度～10年度）で取組む事業を整理し、実施計画として策定します。



第2節 みらい計画（上位計画）の概要

千葉県立中央博物館みらい計画

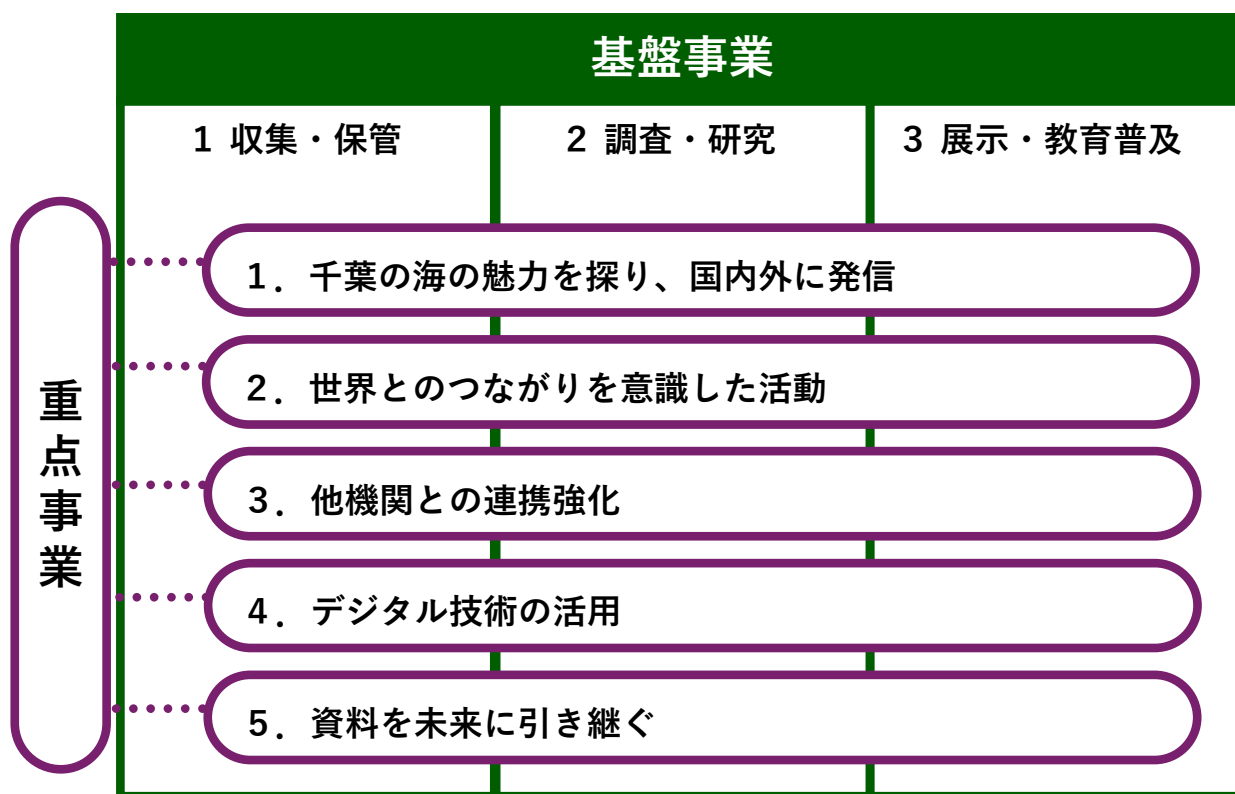
これからの中央博物館	自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化することで 総合博物館としての機能を強める
目 的	県内博物館の中心となり、自然と歴史、文化に関する県民の知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献し、ひいては科学の進歩・社会の発展に寄与する
基本コンセプト	多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く
目指す姿	1) 千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館 2) 千葉から世界に拓く博物館
大切にする価値観	1) 資料やフィールド活動を大切にする 2) 中央博物館からつながりの輪を広げる
取組の方針	以下5つの「つながり」の視点で取組の方針を整理し、収集・保管、調査・研究、展示・教育普及の博物館活動を展開



第3節 本計画の構成と総合的目標

「千葉諸県立中央博物館みらい計画」を実現するため、博物館を支える基本的事業である収集保管、調査・研究、展示・教育普及を基盤事業として着実に進めるとともに、特に力を入れて取り組む事業を5つの重点事業として整理します。

また、今後4年間で取り組むべき総合的な目標を以下の通り定めます。



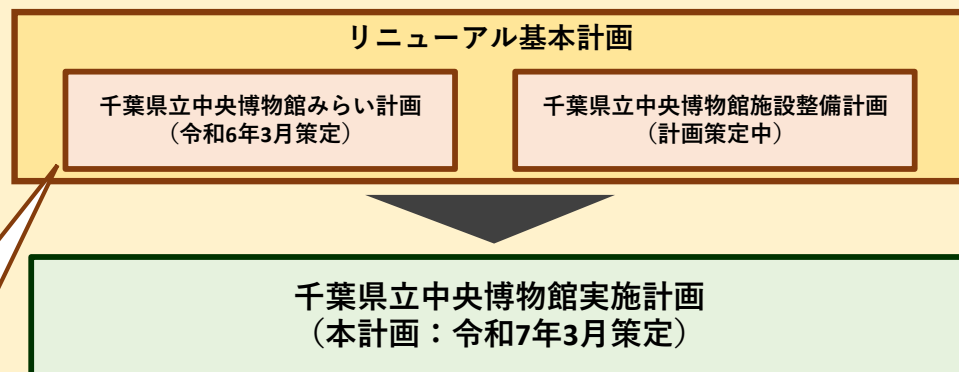
総合的目標

指標	現状（R5年度）	目標（R10年度）
中央博物館の年間利用者数	入館者数	入館者数
	本館 96,381人	本館 146,000人
	分館海の博物館 60,118人	分館海の博物館 61,000人
	ウェブアクセス数（R3～5年度平均）	ウェブアクセス数
	本館 203,613件	本館 240,000件
	分館海の博物館 55,463件	分館海の博物館 66,000件

第4節 本計画の位置づけと概要

(1) 本計画の位置づけ

令和6年3月にリニューアルを見据えたソフト面の基本計画として策定した「千葉県立中央博物館みらい計画」では、これからの中央博物館が目指す姿等を定めました。これをうけ、今後4年間で取組むべき事業をまとめた計画として本計画を策定します。



千葉県立中央博物館みらい計画の概要

基本コンセプト

多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く

目指す姿

- 1) 千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館
- 2) 千葉から世界に拓く博物館

大切にする価値観

- 1) 資料やフィールド活動を大切にする
- 2) 中央博物館からつながりの輪を広げる

取組の方針

「つながり」の視点で5つに整理し、
収集保管、調査研究、展示教育普及などの
博物館活動を行っていく



(2) 本計画の概要

収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を基盤事業として着実に進めるとともに、特に力を入れて取組む事業を重点事業として整理。

総合的目標					
指標	現状（R5年度）			目標（R10年度）	
年間利用者数	入館者数	本館	96,381人	入館者数	本館 146,000人
		海博	60,118人		海博 61,000人
	ウェブアクセス数 (R3～5年度平均)	本館	203,613件	ウェブアクセス数	本館 240,000件
		海博	55,463件		海博 66,000件

※海博：分館海の博物館

基盤事業

収集・保管

- ・資料の積極的な収集・保管体制の整備
- ・誰もが博物館資料とつながることができる環境の確立

調査・研究

- ・集約する地域館の機能を引き継ぎ、自然と人文両分野が連携した視点での活動
- ・県域を俯瞰した視点や全国的、国際的視点での活動の推進

展示・教育普及

- ・自然と歴史、文化の魅力や課題を伝える
- ・時事的な話題や県民ニーズを踏まえた展示・教育普及事業の実施
- ・誰もが楽しめる魅力的な空間の創出

重点事業

1 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

○千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信

- ・東京湾の調査研究と成果発信
- ・海藻利用の調査研究と成果発信
- ・海の幸に関する展示開催 など

○千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催

- ・房総の海辺の生物や地形、文化等の観察会の開催
- ・勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催



勝浦の磯の海洋生物の観察会

2 世界とのつながりを意識した活動

○生物多様性等に関する研究の推進と発信

- ・県内各地の動植物の調査研究と成果発信
- ・生態園の環境や動植物の調査研究と成果発信

○世界の博物館等との連携・交流

- ・海外の博物館等との交流事業の開催
- ・海外の機関との研究交流



韓国国立民俗博物館との交流事業

○ウェブサイト、展示等の多言語化

- ・ウェブサイト表現の平易化と英文の併記
- ・展示パネル等の表現の平易化と英文の併記 など

○千葉県と世界のかかわりについての研究

- ・海外の学問やお茶、海藻など、千葉と世界のかかわりについての調査研究と成果発信

3 他機関との連携強化

○様々な主体との連携

- ・君津市等と連携したフィールド・ミュージアム事業の実施
- ・県内各地の観察ガイドマップの作成
- ・様々な主体と連携したイベント実施 など

○青葉の森公園周辺施設との連携強化

- ・公園で1日過ごせるプログラムの実施
- ・県立図書館との連携事業の実施
- ・「あおばまつり」等への参加 など

○博物館や研究機関等との連携強化

- ・国立歴史民俗博物館との連携強化
- ・東京大学千葉演習林との連携強化
- ・市町村博物館との共同研究等の実施 など



民間商業施設でのイベントの様子

4 デジタル技術の活用

○博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実

- ・資料情報のデジタル化と公開
- ・ウェブコンテンツの充実 など

○外部システムとの連携

- ・国内外のネットワークと連携した資料情報発信
- ・研究者間の交流促進 など

○オンラインによる行事の実施

- ・オンライン講座や講演会の開催
- ・海外機関とのオンライン・シンポジウムの開催

○展示等におけるデジタル技術の活用

- ・デジタル資料情報を展示に活用
- ・SNS等による研究成果等の発信



ナウマンゾウ骨格3Dデータ

5 資料を未来に引き継ぐ

○収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管

- ・収集資料の標本化・整理作業の推進
- ・資料データベースへの登録推進 など

○資料管理体制の強化

- ・収蔵資料の管理体制強化
- ・職員の資料保存スキルの向上

○資料救済ネットワーク拠点機能の強化

- ・県内各地の資料情報の集約
- ・全国規模の資料救済システムとの連携
- ・資料継承に関する相談受付 など



東日本地震被災標本のレスキュー

第1節 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

三方を海に囲まれた千葉県。日本最大級の砂浜海岸である九十九里浜、複雑に入り組んだ房総の岩礁海岸、東京湾の遠浅の干潟など、地域ごとに特色のある自然環境の中で、人々は海とともに生活し、地域ならではの文化を育んできました。

また、千葉県は海を介して日本各地や世界とつながっており、様々な地域とのかかわりを通して、多様な文化を生み出してきました。

中央博物館の多様な専門性を活かし、**自然・人文が連携**することで千葉の海の「**おもしろい**」を探り、新たな価値を創造・発信し、**地域の活性化や文化観光※¹**に貢献します。

（1）具体的な取組

①千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信

千葉の海の自然や、海を介した人々の暮らしについて、**自然・人文の連携により、他機関の研究者などと共同して、国際的な視野を持って調査研究を行い、千葉の海の新たな魅力を見つけだし、論文や展示、ウェブ等によって世界中に広く発信**します。これらを通じて、千葉の海の「おもしろい」を世界中の人々に伝え、多くの人に千葉の海へ足を運んでもらうきっかけを作ること、地域振興、文化観光に貢献します。

- 東京湾の変遷について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信
- 千葉県における海藻利用について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信 **新規**
- 房総海岸部における動植物の調査研究と成果の発信 **新規**
- 千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する展示の開催
- 深海生物についての調査研究と成果の発信
- 分館海の博物館における海の自然に関する調査研究と成果の発信

②千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催

千葉の海をフィールドとした観察会や見学会を通じ、海辺の生物の生態や海が育んだ千葉ならではの暮らし等、**千葉の海の「おもしろい」を肌で感じてもらう**ことで、郷土愛を育み、千葉の海を守っていく人材を育成します。

- 房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催
- 房総の海辺の文化等の見学会の開催
- 勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催



房総の海をフィールドとした観察会の様子

(2) 実施スケジュール

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	東京湾の変遷を探る (中央博重点研究※2)	研究及び資料収集 → 小冊子発行	展示準備	トピックス展開催	編集 → デジタルミュージアム ^{※3} 等による公開
	千葉県における海藻利用	千葉の海藻文化と東アジア(仮)(国立歴史民俗博物館との共同研究) 研究及び資料収集 → 研究速報発行	展示準備	特別展開催	編集 → デジタルミュージアム等による公開
	房総海岸部における動植物 (中央博重点研究)	予備調査 → 計画立案 → 準備	全体調査	外房調査・資料収集	内房調査・資料収集
	千葉の海の幸	準備 → 特別展開催	編集	デジタルミュージアム等による公開	
	深海生物	研究及び資料収集	計画立案 → 展示準備	特別展開催	編集 → デジタルミュージアム等による公開
	海の自然	展示準備 → マリンサイエンスギャラリー ^{※4} 開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリンサイエンスギャラリー開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリンサイエンスギャラリー開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリンサイエンスギャラリー開催
② 千葉の海をフィールドとした観察会 や見学会の開催	房総の海辺の生物や地形等の観察会	R8予備調査・計画立案 → 事業実施	R9予備調査・計画立案 → 事業実施	R10予備調査・計画立案 → 事業実施	R11予備調査・計画立案
	房総の海辺の文化等の見学会	予備調査 → 計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査
	勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会	開催準備予備調査 → 事業実施計画立案	開催準備予備調査 → 事業実施計画立案	開催準備予備調査 → 事業実施計画立案	開催準備予備調査 → 事業実施計画立案

※1 文化観光：文化についての理解を深めることを目的とする観光（文化庁ウェブサイトより）

※2 重点研究：中央博物館で行う研究種別の一つ。千葉県の自然と歴史及び博物館活動に関する今日的な課題について、短期集中的に調査し研究を行うプロジェクト。3～5年を研究期間としている。

※3 デジタルミュージアム：千葉県立博物館のウェブサイト上のデジタルコンテンツ。博物館ごとに資料の紹介、展示の紹介、研究成果の紹介等の番組を作成・公開している。

※4 マリンサイエンスギャラリー：中央博物館分館海の博物館で毎年開催する企画展示。

第2節 世界とのつながりを意識した活動

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

世界とつながる海と空の窓口を持つ千葉県。海と空を通して古くから世界とつながり、多様な文化を生み出してきました。近年では、国際化の進展やグローバル化が進んでおり、より世界とのつながりを意識することが求められています。

また、地球規模での自然環境の悪化・消失や生物多様性の損失などが進んでおり、SDGsの達成が課題となっています。

世界の博物館等との交流や共同研究によって、千葉県と世界のかかわりについて研究するとともに、ウェブサイトや展示等の多言語化により、中央博から世界中の人々に千葉の「おもしろい」を届けます。また、生物多様性に関する研究等を行い、SDGsの達成に向けた取組を推進するとともに、千葉県と世界の自然や文化を大切に作る人材を育みます。

(1) 具体的な取組

①生物多様性等に関する研究の推進と発信

生物多様性を保全するためには、その重要性を多くの人々が認識することが必要です。そのため、**県内各地の動植物の生息状況の調査・研究**により県内の生物多様性を明らかにするとともに、都市の中で豊かな生態系が築かれた**生態園※¹における気象データや動植物の生息状況調査**により、多様な生き物のかかわりの仕組みを明らかにします。**これら研究の成果を展示や講座・観察会、ウェブ等を通して伝える**ことで、生物多様性や生態系保全の重要性を理解し、自然環境を守り、育てる人材を育成することで、SDGsの達成に貢献します。

- 県内各地（下総台地、房総海岸部、里山等）における動植物の調査研究と成果の発信 **一部新規**
- 生態園における環境や動植物の生息状況等の継続的な調査研究と成果の発信

②世界の博物館等との連携・交流

海外の博物館等との連携・交流を通じて、互いの国の自然や歴史、文化について紹介することにより、グローバルな視点での千葉県の新たな価値や魅力を発見します。また、博物館活動についての情報を共有することで、国際的な潮流を踏まえた博物館活動を展開していきます。

- 海外の博物館等との住民参加型の博物館活動を通じた交流事業の実施 **新規**
- 海外の機関との研究等による交流

③ウェブサイト、展示等の多言語化

ウェブサイトや展示等に平易な表現を用い、英訳文を併記することや二次元コードの活用など様々な方法により多言語化し、世界中の人々が千葉や世界の「おもしろい」に触れる機会を増加させるとともに、多くの人にとってわかりやすく楽しめる博物館を目指します。

- 博物館利用案内や展示案内などのウェブサイトの表現の平易化、英訳併記など
- デジタルミュージアムなどウェブコンテンツの表現の平易化、英訳併記など **新規**
- 常設展示の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など **新規**
- 展覧会の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など

④千葉県と世界のかかわりについての研究

千葉県と世界とのかかわりについて研究し、その成果を展示として紹介することで、千葉県と世界とのかかわりを再認識してもらい、地球規模で物事を考えるきっかけにってもらいます。

- 海外の学問やお茶、海藻など千葉県と世界の意外なかかわりについての調査研究と成果の発信 **新規**

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
①生物多様性等に関する研究の推進と発信	県内各地の動植物	下総台地の自然 調査・研究及び資料収集→執筆→報告書刊行→季節展 房総海岸部（再掲） 予備調査→計画立案→準備→全体調査→外房調査・資料収集→内房調査・資料収集→ 里山など（仮） 予備調査→計画立案→準備→全体調査→地域調査・資料収集→			
	生態園の環境や動植物	展示開催 トピックス展 トピックス展 調査研究	トピックス展 トピックス展	トピックス展 トピックス展	トピックス展 トピックス展
携・交流 ②世界の博物館等との連携	海外の博物館との交流事業の実施	準備→計画立案→準備→交流開始・事業打合せ→事業実施→事業実施→			
		研究等による交流			
化③ウェブサイト、展示等の多言語	ウェブサイトの表現の平易化、英訳併記	事例調査→計画立案 予算要求→業者選定→公開・更新→			
	常設展示の表現の平易化、英訳併記	事例調査→計画立案 予算要求→業者選定→公開・更新→			
	展覧会の表現の平易化、英訳併記	→特別展実施→特別展実施→特別展実施→特別展実施→			
究④千葉県と世界のかかわりについての研究	千葉の海藻文化と東アジア（仮）（国立歴史民俗博物館との共同研究）（再掲）	研究及び資料収集→研究速報発行→展示準備→季節展開催→編集→デジタルミュージアム等による公開			
	海外から入ってきた学問に関する研究	予備調査→計画立案→準備→調査・研究及び資料収集→研究速報→展示準備→特別展			
	千葉のお茶と世界とのかかわりに関する研究	調査・研究及び資料収集→展示準備→季節展→編集→デジタルミュージアム等による公開			

9

第3節 他機関との連携強化

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

博物館をとりまく社会情勢の変化を背景とし、博物館には教育や文化の域を超えて、様々な分野との連携による地域社会へ貢献することが求められるようになりました。

そのため、市町村や市民団体等を含めた県内各地の様々な主体との連携事業や中央博物館が立地する青葉の森公園周辺施設との連携強化、博物館や研究機関等との協力体制の構築により**地域振興**及び**文化観光**に貢献します。

(1) 具体的な取組と事業内容

① 様々な主体との連携

千葉県全域を対象とし、中央博物館が実施している「**フィールド・ミュージアム※¹**」事業等において、**県内の様々な主体との連携を強化し、県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップを作成**するとともに、**県内各地のフィールドで観察会・見学会を実施**します。これらの活動を通し、県民が千葉の自然と歴史、文化と直接触れる体験機会を通し、千葉の「おもしろい」を伝えます。

また、**県内の様々な主体が野外で実施している博物館活動等の情報を集約・公開**し、県民を千葉の自然と歴史、文化とつなげる役目を果たします。

- 君津市立清和小学校等の県内各地の様々な主体と連携したフィールド・ミュージアム事業（観察会や見学会）の実施
- 県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップの作成 **新規**
- 市町村や団体等が県内各地で実施する観察会などの野外における博物館活動等の情報集約・公開 **新規**
- 様々な主体による観光イベントや広報媒体との連携による千葉の「おもしろい」の発信

② 青葉の森公園周辺施設との連携強化

中央博物館は、県立の都市公園「青葉の森公園」の中に立地しています。公園内には青葉の森公園芸術文化ホールをはじめとした諸施設があり、新千葉県立図書館・県文書館複合施設が建設される予定です。公園に立地する諸施設との連携を強化し、中央博物館等に多くの人を集め、地域振興に努めます。


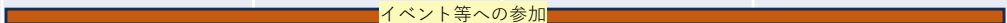

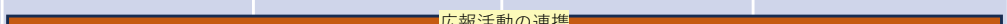

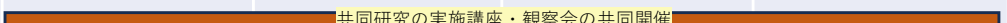

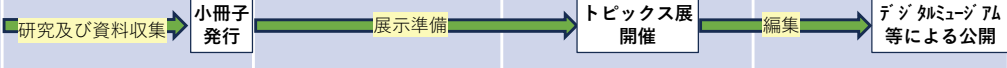
- 青葉の森公園内で実施されるイベント等への参画
- 周辺施設と連携した展覧会や**公園で1日ずごせるプログラム**の実施
- 展覧会や**レファレンスサービス※²**等における県立中央図書館との連携の実施

③ 博物館や研究機関等との連携強化

連携協定を締結している**国立歴史民俗博物館や東京大学千葉演習林をはじめとした博物館等との連携を強化**します。**博物館職員同士が共同研究できる環境を作り、交流の拠点となること**で、それぞれの特性を活かした視点から千葉の自然と歴史、文化の「おもしろい」を見つけ、**広報活動等の連携**を通じてより多くの人々に伝え、千葉を訪れる人を増やすことで地域振興及び文化観光に貢献します。

- 国立歴史民俗博物館との共同研究や展示、講座、広報活動の実施
- 東京大学千葉演習林との共同研究や講座・観察会等の共催
- 千葉の自然と歴史、文化等に関する市町村立博物館職員等との共同研究等の実施
- 当館主催の共同研究に参画する研究員制度の整備

(2) 実施スケジュール

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 様々な主体との連携	フィールド・ミュージアム事業	重点地区 北 総	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総	重点地区 ベイエリア
	観察ガイドマップの作成	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総	重点地区 ベイエリア	重点地区 九十九里
	様々な主体が実施する野外における博物館活動等の情報集約・公開				
② 青葉の森公園周辺施設との連携強化	イベント参画等による様々な主体との連携強化				
	公園内施設との連携事業				
	県立中央図書館との連携事業の実施	「海の幸」など	恐竜（仮）など	深海生物（仮）など	チバニアン（仮）など
③ 博物館や研究機関等との連携強化	国立歴史民俗博物館	 			
	東京大学千葉演習林	 			
	博物館職員等との共同研究				

※1 フィールド・ミュージアム：房総の自然や文化そのものを“資料”や“展示物”と考える、野外で実施する博物館活動。

※2 レファレンスサービス：利用者の質問等について、必要な資料や情報を案内するサービス。

第4節 デジタル技術の活用

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

情報通信技術の普及やデジタル社会の進展等により、あらゆる人々がインターネット等を通じて様々な情報に触れられるようになるとともに、従来は難しかった高解像度の画像や3D画像といった大容量データのオンライン提供が可能となりました。

博物館においても、資料情報のデジタル化を推進し、ウェブコンテンツの充実や外部システムとの連携をはかるとともに、行事や展示にデジタル技術を活用した新たな手法を取り入れることで**人々の知的好奇心に応えます。**

(1) 具体的な取組と事業内容

①博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実

高精細画像や3D画像の取得など、博物館資料情報のデジタル化を推進します。これにより、デジタルデータによる資料の閲覧等ができるようになり、実物資料の劣化が防げるようになります。さらに、**ウェブサイト等での公開**により、いつでもどこでも誰でも博物館資料情報が閲覧できるようになります。

また、**博物館のウェブコンテンツを充実**させるとともに、**より使いやすいウェブサイト**にリニューアルし、アクセシビリティを向上させ、誰もが博物館の情報とつながれるようにします。

- 高精細画像や3D画像などの取得による博物館資料情報のデジタル化と公開 **新規**
- デジタルミュージアム等におけるウェブコンテンツの充実
- ウェブサイトのリニューアルや収蔵資料データベースの拡充等、システム環境の整備
- デジタルデータ公開に係るポリシーの見直し（R7年度）

②外部システムとの連携

博物館情報を扱うサービスには、国内外のデジタルアーカイブサイトと連携したプラットフォームや、国内外の同種の情報を集めたポータルサイトなど多くの外部システムがあります。これらと連携することによって、中央博物館の資料情報が世界中の資料情報とともに閲覧できるようになり、それぞれの資料に新たな知見が加わり、資料価値が高まる可能性を広げます。

また、世界中から中央博物館の資料情報にアクセスできるようになり、世界に開かれた博物館となります。

- 国際的なネットワークとの連携
(地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) ※¹ 国際塩基配列データベース (INSD) ※²)
- 国内のプラットフォームとの連携構築 (ジャパンサーチ※³ 文化遺産オンライン※⁴ J-STAGE※⁵) **新規**
- 研究者間の交流促進 (researchmap※⁶との連携・拡充)

③オンラインによる行事の実施

自然と歴史、文化に関する講座や講演会などをオンライン配信することで、博物館に来訪しなくても気軽に博物館の行事に参加できるようになり、博物館利用者のすそ野を広げます。

また、**海外の機関とのシンポジウム等をオンラインで共同開催**することより、お互いがその場にながらつながることが可能となり、より多くの人々に様々な体験や経験を提供します。

- オンラインによる自然と歴史、文化に関する講座や講演会等の実施
- オンラインによる海外の機関とのシンポジウム等の共同開催 **新規**

④展示等におけるデジタル技術の活用

高精細画像や3D画像などのデジタル化した博物館資料情報等を活用した新たな手法を展示等に取り入れることや、**研究成果等をSNS等でわかりやすく発信**することにより、自然と歴史、文化の「おもしろい」を人々に伝え、知的好奇心に応えます。

- 高精細画像や3D画像などのデジタル化した博物館資料情報を展示等に活用
- SNS等を活用した研究成果等の迅速な発信

(2) 実施スケジュール

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① コンテンツの充実	資料情報のデジタル化と公開	デジタル化（高精細画像化、3D画像化、写真フィルムのスキャニング等）・公開			
	ウェブコンテンツの充実	デジタルミュージアム 地学関連	動物資料	植物資料	人文資料
	ウェブサイトのリニューアルや収蔵資料データベースの拡充等、システム環境の整備	システム検討(専門家委員会など)→システム構築→運用開始			
	データ公開ポリシーの見直し	見直し			
② 外部システムとの連携	国際的なネットワークとの連携	地球規模生物多様性情報機構（GBIF） 国際塩基配列データベース（INSD） 情報提供・連携継続			
	国内のプラットフォームとの連携構築	ジャパンサーチ・J-STAGE 連携検討	情報提供・連携継続		
		文化遺産オンライン 連携検討	情報提供・連携継続		
	研究者間の交流促進	researchmap	連携・拡充		
③ オンラインによる行事の実施	オンラインによる講座等の実施	講座・観察会等のオンライン配信			
	海外機関とのシンポジウム等の共同開催		実施方法検討	シンポジウム	イベント
④ デジタル技術等における活用	デジタル化した博物館資料情報の展示等への活用	事例調査→準備→計画立案	準備→事業実施	公開・更新	

- ※1 地球規模生物多様性情報機構(GBIF)：地球上のあらゆる種類の生物に関するデータをオープンアクセスで提供することを目的として設置された国際的なネットワーク。
- ※2 国際塩基配列データベース(INSD)：全世界の研究者が実験によって明らかにした塩基配列データを収集・編集し、科学的記録として保存しているデータベース。
- ※3 ジャパンサーチ：書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学・学術資産・放送番組・映画など日本が保有する様々な分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム
- ※4 文化遺産オンライン：文化庁が運営する我が国の文化遺産についてのポータルサイト。全国の博物館・美術館等から提供された作品や国宝・重要文化財など、さまざまな情報を閲覧できる。
- ※5 J-STAGE：科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルプラットフォームで、日本から発表される科学技術情報の迅速な流通と国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進を目指している。
- ※6 researchmap：日本の研究者情報を収集・公開するとともに、研究者等による情報発信の場や研究者等間の情報交換の場を提供することを目的として、科学技術振興機構が運営するサービス。

第5節 資料を未来に引き継ぐ

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

博物館の収蔵資料は、人類の共有の財産であるため、次世代に残し、未来につなげていく責務があります。そのため、収集した資料の標本化・整理・修復作業を行い、資料を収蔵可能な状態にし、収蔵庫等の安定した環境で長期にわたり保管していく必要があります。

中央博物館では、収集資料の標本化等の作業を迅速に行うとともに、**集約する地域館の資料を引継ぎ**、温湿度管理や燻蒸等を含めた収蔵環境の整備を進めていきます。また、**県内博物館の中心として、資料救済ネットワーク拠点機能**を強化し、市町村博物館や個人、学校等の地域が収蔵する資料を**未来へつなげる**支援体制を確立します。

(1) 具体的な取組と事業内容

①収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管

収集した資料の特性に応じた標本化・整理作業等を行い、採集場所や日時等の資料情報を附して、収蔵資料データベースに登録します。この作業を通じて収集資料が県民の宝である収蔵資料となり、未来につなぐことが可能となります。

- 収集資料の標本化・整理・修復作業の推進
- 収蔵資料データベースへの登録の推進
- 大利根分館、大多喜城分館の資料集約・保管

②資料管理体制の強化

博物館資料を未来に引継ぐためには、収蔵庫を適切な状態に保ちながら管理することが必要です。

「**総合的有害生物管理 (IPM) ※¹**」の手法や定期的な**温湿度モニタリング**等により、収蔵庫を最適な状態で管理するとともに、**職員の資料保存に関する知識を高め**、確実に博物館資料を未来に引継いでいきます。

- 総合的有害生物管理の手法や定期的な温湿度モニタリング等による収蔵資料の管理体制強化
- 資料保存に関する外部研修会等への参加による職員のスキルアップ

③資料救済ネットワーク拠点機能の強化

県内の博物館によって組織している「千葉県博物館協会」では、自然災害などにより大きな被害を受けたとき、協会全体でその資料を救済するシステムとして、「博物館資料救済システム」を運用しています。中央博物館は、同システムの**センター館としての活動を行います**。

また、個人や学校等の各地域で所有しきれなくなった資料を救済する必要もあります。このため、**資料に関する相談窓口を新設**し、市町村立博物館との情報共有を密にして、地域で保管している資料についての相談に応じる等、資料救済ネットワーク拠点としての機能を強化していきます。

- 「博物館資料救済システム」のセンター館として災害発生時の情報集約、平時の情報伝達訓練や研修等を実施
- 県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約
- 自然史系標本セーフティネット※²、歴史資料ネットワーク※³などと連携した全国規模の資料救済 **新規**
- 地域継承が困難な資料に関する相談受付 **新規**
- 寄託・寄贈資料の積極的な受入れ

(2) 実施スケジュール

	事業内容	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 1 0 年度	
①地域館資料の集約・保管	収集資料の標本化・整理・修復作業	継続的な標本化・整理・修復作業等				
	収蔵資料データベースへの登録	継続的な資料データベース登録				
	分館資料の集約・保管	大根分館	大根分館で資料保管・活用			
		大多喜城分館	資料確認・移動	本館・研修館・大根分館で保管・活用		
②資料管理体制の強化	収蔵資料の管理体制強化	IPMの手法や温湿度のモニタリング等による収蔵庫の管理				
	資料保存に関する職員のスキルアップ	職員の外部研修等への参加（年 2 人程度）				
③資料救済ネットワーク拠点機能の強化	県内各地の資料情報の集約	重点地区 バイエリア	重点地区 九十九里	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総	
	自然史系標本セーフティネット、歴史資料ネットワークなどとの連携	連携検討	連携継続			
	地域継承が困難な資料に関する相談受付	体制検討・構築	継続実施			

- ※1 総合的有害生物管理（IPM）：文化財の生物被害対策を薬剤だけに頼ることを止め、予防に重点を置いて総合的に管理すること。
- ※2 自然史系標本セーフティネット：貴重な標本の破棄・散逸を防ぐために設立された組織。博物館同士で寄贈標本に関する情報を一元化し、標本受け入れ先を効率よく探し出すことで、自然史をひも解く上で重要な資料となる標本を、少しでも多く救うことを目的としている。
- ※3 歴史資料ネットワーク：関西に拠点を置く歴史学会を中心に、阪神大震災で被災した歴史資料保全のために歴史資料保全情報ネットワークとして開設された。大学教員や院生・学生、史料保存機関職員、地域の歴史研究者などがボランティアとして参加する団体。

第1節 収集・保管

千葉の自然と歴史、文化に関する資料を集め、未来へつなぐために、資料の積極的な収集・保管体制の整備を推進するとともに、だれもが博物館資料とつながることができる環境を確立し、県民の宝を多くの人たちが利用できるようにします。

具体的な取組と事業内容

① 分野をつなげる ～自然・人文の連携による資料収集・保管～

地域館が収蔵していた資料が本館へ集約されることに伴い、自然・人文両分野の特性を活かした新たなコレクションポリシーを見直し、継続的な収集・保管につとめます。また、多様な分野の協働、他機関との資料を使った共同研究によって新たな資料の価値を創出します。

- ・自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシー（資料収集方針）の見直し（R7年度）
- ・自然・人文両分野の学芸員の協働による県南地域や海にかかわる資料の積極的な収集 **新規**
- ・千葉県にかかわりのある資料を県域にとらわれずに収集
- ・他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出

② 地域をつなげる ～地域を俯瞰した資料収集・保管～

地域で活動する様々な主体と連携しながら資料収集や地域に所在する資料情報の収集を行うこと等を通し、県域全域を俯瞰した資料収集を行います。

- ・海岸地域や大規模開発地等、環境変化の大きい地域の集中的な資料収集 **新規**
- ・県の特徴を明らかにするために不足している分野の集中的な資料収集
- ・国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実
- ・地域の人々によってに保存・保管されている資料情報の収集 **新規**

③ 情報をつなげる

重点事業で整理。

④ 人をつなげる ～県民参加・協働による資料収集・保管～

市民研究員※1、ボランティアなど県民と協働して資料収集や整理作業を行うことで、県民とともに歩む博物館となると同時に、県民どうしの新たな協働を生み出し、人と人をつなげます。

- ・研究プロジェクトにおける県民との協働による資料収集の推進
- ・ボランティアとの協働による資料整理の推進
- ・他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出（再掲）

⑤ 未来へつなげる ～これまでの成果の継承～

生きた資料であるリビングコレクション※2の扱いの検討等を含め、自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシーに見直し、継続的な収集・保管につとめます。

- ・コレクションポリシーに沿った計画的な資料収集

※1 **市民研究員**：県民の自主的な研究活動を支援するための中央博物館の制度。博物館職員と連携して助言を受けつつ、個々のテーマに沿った調査研究活動を行う市民研究員を受入れている。

※2 **リビングコレクション**：貴重な植物などの生きているままのコレクション。中央博物館には、埋土種子（長らく湖底等の地中で休眠していた植物の種子）から絶滅危惧種等の貴重な植物を発芽させ、生態環境の再生のために生育管理しているものがある。

第2節 調査・研究

博物館活動の根底を支える調査・研究を推進します。調査・研究にあたっては、集約する地域館の機能を引継ぎ、自然と人文両分野が連携した視点で活動を行うとともに、県域を俯瞰した視点や全国的、国際的視点での活動を推進していきます。

具体的な取組と事業内容

① 分野をつなげる ～自然と人文の連携等による広域的な視点での研究実施～

自然・人文の各分野の研究に加え、両分野が連携した研究を推進します。また、各分野の学術水準を高めるための普遍研究※¹も推進します。これらの研究にあたっては、文部科学省および日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業※²等の外部資金も活用し、自然、歴史と文化の「おもしろい」を伝える基礎を蓄積します。

- ・両分野連携研究の実施
- ・自然・人文各分野別の研究プロジェクトの実施（研究課題「千葉の盆綱習俗」など）
- ・普遍研究の推進（「微小化石に基づく貝類化石の分類及び古生態の研究」など）
- ・科学研究費等外部資金の活用推進
- ・研究職員による研究データの管理方法の検討

② 地域をつなげる ～地域を俯瞰した調査・研究～

千葉県の自然の現状と歴史を把握し、その起源と成立過程などを明らかにする地域研究※³を実施します。これらの研究を通して、千葉の自然、歴史と文化の「おもしろい」を見つけ、地域をつなげます。

- ・県内各地域を調査・研究する地域研究を実施（「房総の魚類誌」など）
- ・市民研究員等との共同研究の実施

③ 情報をつなげる

重点事業で整理。

④ 人をつなげる ～県民や市民団体と協働した調査・研究～

県民や市民団体等と協力しながら調査・研究活動を行うとともに、県民の自主的な研究活動等を支援することにより、新たな協働を生み出し、人と人をつなげます。

- ・県民や市民団体等と協働して行う調査研究の推進
- ・県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進

⑤ 未来へつなげる ～計画的な調査・研究の実施～

中央博物館や集約する地域館のこれまでの研究成果を踏まえ、県立博物館として行うべき研究の理念や責務等を明確化する研究ポリシー（研究方針）を策定し、中長期的視点で研究を進めます。また、専門技術の取得や最先端の情報収集のため、講習会や学会、セミナー等へ積極的に参加することで、職員のスキルアップを目指します。

- ・機関リポジトリの整備・公開
- ・分館海の博物館の研究成果をまとめた開館30周年記念論文集の発行
- ・研究ポリシー（研究方針）の策定（R7年度）
- ・研究ポリシーに基づいた中長期の研究計画の策定（R8年度）
- ・他機関の講師等を招いた研究会等の実施
- ・専門技術の取得や最先端の情報収集のための講習会や学会、セミナー等への参加

※1 普遍研究：中央博物館で行う研究種別の一つ。博物館運営の底辺を支える学術的専門分野の水準を維持し、発展させるための研究。

※2 科学研究費助成事業：人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」。

※3 地域研究：中央博物館で行う研究種別の一つ。千葉県の自然の現状と歴史を把握し、その起源と成立過程などを明らかにすることを目的とする広い領域を対象とした研究。

第3節 展示・教育普及

県民の多様な知的好奇心に応えるため、自然と歴史、文化の魅力や課題を伝えるとともに、時事的な話題や県民ニーズを踏まえたテーマの展示・教育普及事業を実施します。また、年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめる、魅力的な空間を創出します。

具体的な取組と事業内容

① 分野をつなげる ～千葉の「おもしろい」を五感で体感できる活動の実施～

自然・人文といった分野にこだわらず、様々な視点から展示・教育普及活動を実施します。特に、生態園をはじめとした、野外（フィールド）で、五感を刺激する事業展開を積極的に行うことで、展示室の中では体験できない、千葉の「おもしろい」をより深く伝えます。

- ・森の調査隊※¹をはじめとした、生態園での自然観察プログラムの充実
- ・未就学児からシニア層に対応した野外観察会・見学会の実施

② 地域をつなげる ～県内各機関と連携した展示・教育普及事業の実施～

県内の社会教育施設、観光施設等と連携した巡回展示やイベント等での出張展示を行います。また、学習教材を学校等へ貸し出すとともに、社会教育施設が主催する講座等へ職員を講師として派遣します。これらの活動を通して、あらゆる地域の人々に博物館活動を届けます。

- ・社会教育施設や観光施設等の県内施設と連携した巡回展の開催
- ・県立博物館合同事業の実施
- ・県内各地で実施されるイベント等への出張展示
- ・昆虫標本作製キット等の学習教材の貸出
- ・社会教育施設等への講師派遣事業の実施

③ 情報をつなげる ～博物館情報を広く伝える～

SNSやインターネットの活用や様々な主体との連携等により広報活動を積極的に行い、博物館への来館を促進します。

- ・SNS等を活用した博物館情報の迅速な公開
- ・インターネットによる展示情報、行事・催事・イベント情報等の発信
- ・ニュースレター等の発行
- ・利用者数増加のための効果的な広報戦略の展開

④ 人をつなげる ～人が集まる空間の創出と展示・教育普及の実施～

博物館利用者の実態調査に基づいて、誰もが楽しめる、魅力的な空間を創出し、人々の交流の機会を創出します。

- ・中央博サークル※²活動の推進
- ・市民団体等との共催によるイベントの開催（自然誌フェスタなど）
- ・展覧会におけるユニバーサルデザイン等の活用
- ・博物館利用者の実態調査による県民ニーズの把握と改善
- ・誰もが利用しやすい環境整備についての調査研究の推進とその実現
- ・県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進（再掲）

⑤ 未来へつなげる ～千葉の未来を担う人材を育成～

千葉の自然と歴史、文化に関する知見を継承し、展示や教育普及事業を通してその魅力や課題を県民に伝えることで次世代が未来を考えるきっかけをつくり、千葉の未来を担う人材を育成します。

- ・教育普及活動方針の策定（R7年度）
- ・収蔵資料展、研究紹介展示などの開催
- ・中長期的な展示・教育普及計画の策定（R8年度）
- ・インターンシップや職場体験、教員研修等の受入れ及びボランティアの受入れと育成
- ・県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進（再掲）

※¹ 森の調査隊：生態園の木や生きものについての様々な課題をクリアし、職員との対話をとおして自然に対する理解を深めることを目指した自然体験プログラム。

※² 中央博サークル：県民と館員とが相互に交流することで、中央博物館の博物館活動を発展させていくための仕組み。館員の支援や監修のもと、サークルメンバーが楽しみながら主体的にグループ活動を行うことができる。

2章及び3章の取組についての評価指標を博物館事業別に整理しました。

(1) 収集・保管

指標	現状 (R5年度)	目標 (R10年度)	備考
県内外の資料ネットワークとの連携数	0件	4件	重点事業5
様々な主体との連携数	7件	11件	重点事業3
収蔵資料の事故による破損件数	0件	発生させない	重点事業5
資料データベースへの登録点数（累積）	504,902点	600,000点	重点事業5
資料の利用件数	199件	238件	

(2) 調査・研究

指標	現状 (R5年度)	目標 (R10年度)	備考
海外博物館等との共同研究の数（累積）	0件	2件	重点事業2
様々な主体との連携数（再掲）	7件	11件	重点事業3
学術著作の発表数	107件	130件	
外部資金等を活用した研究件数	30件	36件	

(3) 展示・教育普及

指標	現状 (R5年度)	目標 (R10年度)	備考
展覧会で「千葉の海の魅力が増した」と回答した参加者の割合	（新規）	80%以上	重点事業1
展覧会で「生物多様性の理解が深まった」と感じた参加者の割合	（新規）	80%以上	重点事業2
展覧会で「千葉県と世界のかかわりへの理解が深まった」と感じた参加者の割合	（新規）	80%以上	重点事業2
講座・観察会、見学会の参加者数 千葉の海に関する講座・観察会、見学会の参加者数	2,085人 346人	2,500人 400人	重点事業1
様々な主体との連携数（再掲） 青葉の森周辺施設と共同で実施した事業数 他の博物館や研究機関等と共同で実施した事業への参加者数	7件 0件 0人	11件 3件 1,000人	重点事業3
デジタルミュージアム各コンテンツへのアクセス件数	新規	60,000件	重点事業4
SNS等による研究成果の発信数	16件	31件	重点事業4
レファレンスサービス対応件数	3,669件	4,400件	

2章及び3章で整理した今後4年間（令和7年度～10年度）に取り組むべき事業計画を円滑に進めるため、当館の運営体制構築に向け、以下のような取組を進めます。

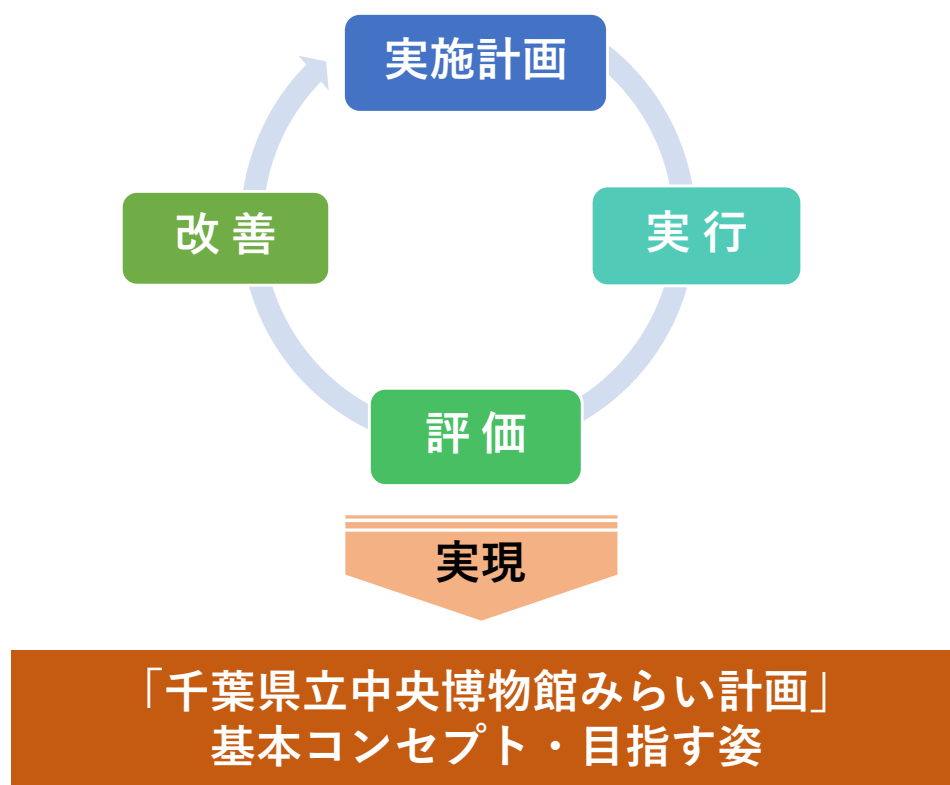
大項目	中項目（取組の方針）	目指すべき運営体制	運営体制構築に向けた今後4年間の取組
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	様々な専門分野に横断的に対応できるような体制づくり	○研究職員等の計画的かつ横断的な研究体制の確立
	②広域的な視点での活動	大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の構築	○大学や企業等との連携体制の検討 ○ワーキンググループ等を活用したMLA連携の推進
		博物館事業のDX化を推進する体制づくり	○DX推進担当を配置するとともに職員向けにDX研修を実施
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県内博物館のネットワークの拠点となるための体制づくり	○千葉県博物館協会を活用したネットワーク体制の充実
	②他機関との連携・支援	大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）等の他機関や地域との連携をとれる体制の確立	○大学や企業等との連携体制の検討【再掲】 ○ワーキンググループ等を活用したMLA連携の推進【再掲】 ○他機関や地域と連携を推進する研究会・ワーキンググループ等の設置検討
	③博物館と地域をつなげる	複数機関との同時連携体制の構築	○複数の博物館との同時連携体制の構築にむけた意見交換の場等の設置検討
		学校や社会教育施設との連携、県民や企業等との協力体制の構築	○連携・協力体制の構築に向けた学校等との意見交換の場等の設置検討
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	最新技術を取り入れることができる体制の整備	○最新技術を学ぶ研究会・研修会等への積極的な参加による人材育成
	②千葉県の魅力にふれる環境づくり	博物館と人々がつながりやすい環境づくり（情報共有サービスの向上、オンラインツールの活用等）	○博物館資料のデジタル化を推進 ○誰もがインターネットを通じて資料に直接アクセスできるシステムの構築
	③資料情報の一元化	県内の他機関との情報共有のための連携体制の構築	○県内各機関との連携体制構築に向けた研究会、ワーキンググループ等の設置検討
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	県民からの情報提供ツールの構築、人々が利用しやすい施設の整備	○県民からオンラインによる情報提供を受け付ける窓口の設置検討 ○自動券売機の導入検討 ○職員のホスピタリティの醸成
		ボランティアや市民団体等との連携体制の強化	○ボランティア等との連携体制の拡充 ○ボランティアや各種団体を対象とした研修会・研究会の実施
	②県民ニーズへの対応	誰もが利用できるアクセシビリティの向上（情報共有、レファレンスサービスの充実等）	○誰もが利用しやすい環境整備等についての調査研究の推進 ○様々な特性を持った利用者に対応できるような職員の研修
		国際交流も視野にいた幅広い連携体制の整備	○博物館関係の国際大会の参加、人的交流など海外の博物館等との交流事業の検討
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	施設の整備（老朽化した施設の改修、防災・防犯機能の高い収蔵庫等の充実、アメニティ設備の充実等）	○施設の適切な維持管理・運営
	②長期的な視点での活動	非常時の博物館資料の救済体制の強化、施設の整備 社会情勢の変化に対応できる設備（可変性が高く、柔軟性のある展示等）の整備	○千葉県博物館協会が運用する博物館資料救済システムのセンター館として、災害発生時のレスキュー体制を構築 ○可変性の高い展示什器（設備）の導入検討
	③人材育成	事務系を含む職員育成等による持続的な運営体制の構築と市町村立等博物館等への支援体制の確立	○県と市町村博物館職員等の人事交流制度の導入検討

「千葉県立中央博物館みらい計画」を実現するためには、本計画の実施状況を点検・分析し、必要な改善に取り組むことが重要です。

当館では、事業の実施状況や達成度などを分析し、課題を把握する「評価」を毎年度実施します。まずは、自己点検をおこなった上で、有識者による評価を実施します。その上でさらに千葉県博物館協議会の視点による意見を聴くことで、評価の客観性・統一性の確保に努めます。この評価により、職員の意識向上を図り、次年度以降の活動に反映させていきます。

これらの評価・改善を継続的に実施することにより、「千葉県立中央博物館みらい計画」の実現に向けた取組を推進していきます。

なお、評価結果についてはホームページを通じて県民に公表します。



【収集・保管】

●重点事業
○基盤事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料も収集・保管 現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管 ○自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシーの見直し ○自然・人文両分野の学芸員の協働による県南地域や海にかかわる資料の積極的な収集
	②広域的な視点での活動	特定分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集保管 科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの資料の収集保管	○千葉県にかかわりのある資料を県域にとらわれずに収集 ○他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出
	③博物館と地域をつなげる	県の施設の資料情報を一元管理するとともに、資料情報の集約による新たな地域資源を把握	●資料救済ネットワーク拠点機能の強化 ○国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県域を俯瞰した視点での収集保管	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管 ○海岸地域や大規模開発地等、環境変化の大きい地域の集中的な資料収集 ○県の特徴を明らかにするために不足している分野の集中的な資料収集
	②他機関との連携・支援	非常時の文化財・博物館資料の救済の実施 国内外機関との交流による収集強化	●資料救済ネットワーク拠点機能の強化 ○国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実
	③博物館と地域をつなげる	県の施設の資料情報を一元管理するとともに、資料情報の集約による新たな地域資源を把握	●資料救済ネットワーク拠点機能の強化 ○地域の人々によって保存・保管されている資料情報の収集
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	博物館資料情報のデジタル化等を推進 外部システム（研究者間資料情報共有システム等）との連携	●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●外部システムとの連携 ●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	収蔵資料や資料情報のアクセシビリティの充実・高度化	●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管
	③資料情報の一元化	県の施設の資料情報の収集・管理	●資料救済ネットワーク拠点機能の強化
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体、ボランティア等と協力した収集保管体制の確立	○研究プロジェクトにおける県民との協働による資料収集の推進 ○ボランティアとの協働による資料整理の推進
	②県民ニーズへの対応	県民にとって財産となる資料の収集 個人や団体の所有資料の情報収集と受入	●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●資料救済ネットワーク拠点機能の強化
	③新たな協働を生む仕組みづくり	学術的価値・資料価値の高いコレクションの充実	○研究プロジェクトにおける県民との協働による資料収集の推進（再掲） ○他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ	●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管 ●資料管理体制の強化
	②長期的な視点での活動	中長期的な収集計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保 自然系、人文系それぞれの特性を活かした全体的なコレクションポリシーへの見直し、コレクションポリシーに基づく収集	●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管 ●資料管理体制の強化 ●資料救済ネットワーク拠点機能の強化 ○コレクションポリシーに沿った計画的な資料収集
	③人材育成	職員の資料管理等専門知識の習得、研修等の実施・参加、引継計画の立案	●博物館や研究機関等との連携強化 ●資料管理体制の強化 ●資料救済ネットワーク拠点機能の強化

【調査・研究】

●重点事業

○基盤事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	自然科学、人文科学等個別分野の研究に加え、両分野の連携による研究機能の強化	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●千葉県と世界のかかわりについての研究 ●博物館や研究機関等との連携強化 ○両分野連携研究の実施 ○自然・人文各分野別の研究プロジェクトの実施
	②広域的な視点での活動	専門領域、特定の地域にこだわらない広域的な研究 科学の進歩に寄与する全国レベル、国際レベルの研究	●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●世界の博物館等との連携・交流 ●千葉県と世界のかかわりについての研究 ●博物館や研究機関等との連携強化 ○普遍研究の推進 ○科学研究費等外部資金の活用推進 ○研究職員による研究データの管理方法の検討
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ○県内各地域を調査・研究する地域研究を実施
	②他機関との連携・支援	国内外機関との連携による全国レベル、国際レベルの研究推進 共同研究等の実施	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●世界の博物館等との連携・交流 ●千葉県と世界のかかわりについての研究 ●博物館や研究機関等との連携強化
	③博物館と地域をつなげる	共同研究等の実施	○市民研究員等との共同研究の実施
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	研究成果の発信・還元機能の強化（報告書や論文のデジタル化等）	●外部システムとの連携
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	レファレンスサービス強化のため、情報発信手段等を研究	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信
	③資料情報の一元化	資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査	●世界の博物館等との連携・交流
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体と協力した調査研究体制の確立	●世界の博物館等との連携・交流 ○県民や市民団体と協働して行う調査研究の推進
	②県民ニーズへの対応	県民等による自主的な研究活動への支援	●ウェブサイト、展示等の多言語化 ○県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進
	③新たな協働を生む仕組みづくり	県内外の研究機関等との協働を生む専門性の高い研究の実施 県民や他機関等多様な主体と協働した研究活動の推進	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●博物館や研究機関等との連携強化 ●外部システムとの連携 ○県民や市民団体と協働して行う調査研究の推進（再掲）
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	これまで実施してきた研究成果の継承 組織的視点での研究計画の立案	●外部システムとの連携 ○機関リポジトリの整備・公開 ○分館海の博物館の研究成果をまとめた開館30周年記念論文集の発行
	②長期的な視点での活動	最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備	●千葉県と世界のかかわりについての研究 ○研究ポリシー（研究方針）の策定 ○研究ポリシーに基づいた中長期の研究計画の策定
	③人材育成	職員の専門技術の向上、研修の実施・参加、引継計画の立案	●博物館や研究機関等との連携強化 ○他機関の講師等を招いた研修会等の実施 ○専門技術の習得や最先端の情報収集のための講習会や学会、セミナー等への参加

【展示・教育普及】

●重点事業
○基盤事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	人文系展示や講座の充実、充実した自然系の強みを活かした展示や講座、レファレンスサービスの実施 両分野が連携した総合的視点の展示や講座、レファレンスサービスの実施 自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施（生態園やフィールド・ミュージアム等）	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●様々な主体との連携 ○森の調査隊をはじめとした、生態園での自然観察プログラムの充実 ○未就学児からシニア層に対応した野外観察会・見学会の実施
	②広域的な視点での活動	専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座	●千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県内各地の自然と歴史、文化を紹介する展示や、県内各地に足を運びきっかけとなる講座の実施	●千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●様々な主体との連携 ○昆虫標本作製キット等の学習教材の貸出 ○社会教育施設等への講師派遣事業の実施
	②他機関との連携・支援	県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施	●様々な主体との連携 ●青葉の森公園周辺施設との連携強化 ●オンラインによる行事の実施 ○社会教育施設や観光施設等の県内施設と連携した巡回展の開催 ○県立博物館合同事業の実施 ○県内各地で実施されるイベント等への出張展示
	③博物館と地域をつなげる	県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施 他館と合同、共催の展示や行事の立案・実施	●様々な主体との連携 ○社会教育施設や観光施設等の県内施設と連携した巡回展の開催（再掲） ○県内各地で実施されるイベント等への出張展示（再掲）
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	研究や資料収集等の成果の情報を迅速に発信 国内外へ情報をわかりやすい形で発信 誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 県内博物館ネットワークを活用した情報発信	●ウェブサイト、展示等の多言語化 ●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●外部システムとの連携 ●展示等におけるデジタル技術の活用 ○SNS等を活用した博物館情報の迅速な公開 ○インターネットによる展示情報、行事・催事・イベント情報等の発信
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	研究や資料収集等の成果の情報を迅速に発信 国内外へ情報をわかりやすい形で発信 誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 県内博物館ネットワークを活用した情報発信	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●ウェブサイト、展示等の多言語化 ●様々な主体との連携 ●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ○ニュースレター等の発行 ○利用者数増加のための効果的な広報戦略の展開
	③資料情報の一元化	県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるようで公開	●様々な主体との連携
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体、ボランティア等と協力した活動（フィールド・ミュージアム等） 年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施	●ウェブサイト、展示等の多言語化 ●様々な主体との連携 ○中央博サークル活動の推進 ○市民団体等との共催によるイベントの開催
	②県民ニーズへの対応	時事的話題やニーズに即応した展示等の充実、次世代の学びに応える活動 年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施 専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施	●ウェブサイト、展示等の多言語化 ●青葉の森公園周辺施設との連携強化 ●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ●外部システムとの連携 ●オンラインによる行事の実施 ●展示等におけるデジタル技術の活用 ○展覧会におけるユニバーサルデザイン等の活用 ○博物館利用者の実態調査による県民ニーズの把握と改善 ○誰もが利用しやすい環境整備についての調査研究の推進とその実現
	③新たな協働を生む仕組みづくり	年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施 専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施 国内外の人材や施設を繋ぐ活動（学芸員と県民、県民同士等）	●様々な主体との連携 ○中央博サークル活動の推進（再掲） ○県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進（再掲）
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	収蔵資料や研究成果を活用した展示や教育普及事業、成果をわかりやすくまとめた資料の作成、レファレンスサービスの強化、各地域の魅力の発信 中長期計画の整備	●様々な主体との連携 ●博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実 ○収蔵資料展、研究紹介展示などの開催
	②長期的な視点での活動	未来を考えるきっかけとなる事業の実施 次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援	●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ○中長期的な展示・教育普及計画の策定
	③人材育成	未来を考えるきっかけとなる事業の実施 次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援 博物館に携わる人材の育成とスキルアップの場になる	●千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信 ●千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催 ●生物多様性等に関する研究の推進と発信 ●様々な主体との連携 ○教育普及活動方針の策定（R7年度） ○インターンシップや職場体験、教員研修等の受入れ及びボランティアの受入れと育成 ○県民の自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進（再掲）

千葉県立中央博物館 実施計画
(令和7年度～10年度)
令和7年3月策定

発行 千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2
電話:043-265-3111 FAX:043-266-2481

県立美術館・博物館5館の連携の現状と課題

なぜ県立美術館・博物館の連携が必要か

博物館法の改正により、地域連携が努力義務のひとつとして追加され、千葉県立美術館活性化基本構想及び千葉県立中央博物館みらい計画に地域連携への取り組みが明記された。それらの実施計画においては地域や他機関との連携・支援がより具体的なビジョンとして設定され、地域連携は県立博物館にとってより重要な課題のひとつとなっている。より質の高い文化振興や地域振興に貢献するためにも、県立博物館同士の連携を今まで以上に深めることは重要なことと思われる。各館の活性化につながる連携のかたちを模索したい。

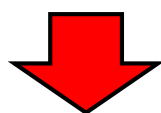
県立美術館・博物館の連携の現状と課題

- 県立5館が連携して行っている事業は年1回の「千葉学講座」のみ。
→ 連携事業・共同コンテンツが少ない。

【千葉学講座】（平成13年度～）＜参考1＞
博物館の研究員等が実施している調査研究活動の成果を、広く還元していくことを目的とした一般向けの公開講座。平成13年度より開設。令和6年度で24年目。

- 各館で若手職員が増えたことや、各館がもつ専門性や職員構成の特性から、県立5館にまたがる職員交流の機会があまり多くない。
→ 県立美術館・博物館の職員間の関係が希薄。他館のことをあまり知らない。

- 各館の情報は原則各館で発信。県立5館の総合的な情報発信媒体は、「千葉の県立博物館」トップページのみ（各館のページにリンク）。
→ 県立美術館・博物館としての広報力が低い。広報対象の固定化・狭小化。



<目指すべき県立5館の連携とは>

- ★ 各館の個性と強みを生かし、各館が互いに魅力を引き出す相互扶助関係を築く。
- ★ 県立5館職員レベルでのネットワークを形成し、活発な情報交換により経験と知識を継承する。
- ★ 共同して情報発信を行い、各館の情報や千葉県の魅力をより効果的に発信する。

新たな取り組みによって期待できる効果

職員の情報共有・交換と人材の育成

広報力・情報発信力の強化

新たな共同事業や共通コンテンツの創出

一県立美術館・博物館5館の連携の新たな取り組み案一

① 県立博物館の人的交流・情報交換の場の創出

【ねらい】

近年、新たに採用された学芸職員が多く、また5館それぞれの特性もあって、他の博物館職員との関係が希薄であることを解消すべく、その交流の場を設け、博物館連携の礎とする。

【対象】

若手職員を中心とした各館の学芸職員

【実施場所・回数】

実施場所は各館で調整（年2回～3回）

【方法】

●県立美術館・博物館交流会（仮）として年間2～3回程度情報交換の場を設ける。

- 例）・ワークショップ等の現状と課題の意見交換
- ・展示準備等の協働作業
- ・合理的配慮を必要とする来館者への対応の事例報告会
- ・他館施設見学と課題と対処を共有 etc

② ワークショップ及び展示の出張実施

【ねらい】

本来の来館者層とは異なる層の来館者の誘致を図る。また、各館から遠方に在住する人たち向けに、近隣館で情報やサービスを提供する。

【対象】

各館本来の来館者層とは異なる層の利用者

【実施場所・回数】

他館（例：現代産業科学館が中央博物館で実施）、実施回数は未定

【方法】

●他館に出張し、ワークショップを行ったり、他館の資料を紹介する出張展示を行う。

③ SNSを使った広報での連携

【ねらい】

各館で運用しているSNSを連携し、本来の来館者層とは異なる層の誘致を図るとともに、実際には来館しない層にも情報を波及させ、知名度の底上げを狙う。

【対象】

各館本来の閲覧層とは異なる層の利用者及びSNSの閲覧者

【実施場所・回数】

各館SNSやメールマガジン等広報媒体（月1～2回）

【方法】

- リレー形式で各館の情報をSNSで投稿する。（美術館が現代産業科学館を紹介し、現代産業科学館が房総のむらを紹介する等）
- あらかじめ共通のハッシュタグを決めて、他館の情報を自館のSNSに投稿する。
- 各館のメールマガジンでも他館の広報・告知を行う。

④ デジタルサイネージを用いた県立博物館情報コーナー

【ねらい】

来館者に他の県立博物館の存在と活動を知ってもらい、来訪と回遊を促す契機とする。
また、ウェブサイト閲覧する機会の少ない情報弱者に、視覚効果の高い情報サービスを提供することで、ウェブサイトとの差別化を図る。

【対象】

来館者

【実施場所・回数】

各館に設置、年間の更新回数は各館で協議

【方法】

- 各館に専用デジタルサイネージを設置し、自館だけでなく、他館の内容も含め、県立博物館全体の概要（活動内容や展示等）を紹介する。
- タッチパネル式でインタラクティブ型にし、来館者が能動的に情報を引き出せるようにする。（情報弱者にとって煩わしいPC操作を必要としない設計）
- 共同コンテンツの開発
 - 例）・各館のトピックス紹介
 - ・同一テーマで各館の資料一品紹介
 - ・「この展示物はどこの博物館？」クイズコンテンツ etc
- 将来的には、県立美術館・博物館にとどまらず、県内博物館や地域の情報なども発信する他機関や地域との連携ツールとして発展的に活用。

※予算措置が必要なものに関しては、令和8年度以降で検討。